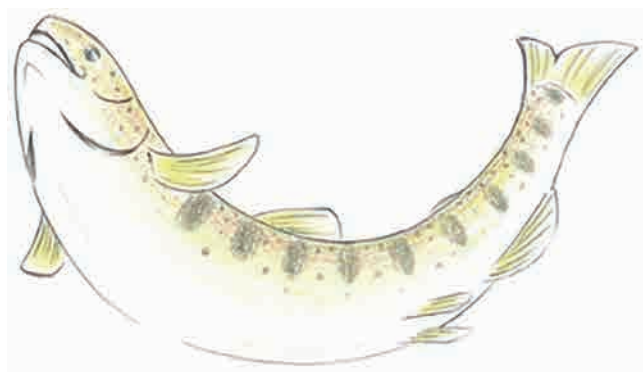


令和2年度

サクラマス・プロジェクト

キャリア教育 報告集



「アントレプレナーシップ教育」



島根県立吉賀高等学校

巻 頭 言

島根県立吉賀高等学校

校長 渡 部 敏 郎

吉賀高校のキャリア教育は、高校魅力化事業開始以来「総合的な探究の時間」を中心に、1～3年次の連続性を持たせ「アントレプレナーシップ教育」に取り組んでいます。

おかげさまで「アントレプレナーシップ教育」は、1年次「アントレⅠ（課題発見期）」、2年次「アントレⅡ（課題解決期）」、3年次「アントレⅢ（課題発展期）」としてプログラムが定着し、地域の皆様にも広く認知されるようになりました。ここ数年においては、より探究色を強めた本格的な課題解決型学習として「アントレプレナーシップ教育」活動を推進できています。

今年の成果発表会は、その内容を「アントレプレナーシップ教育」活動のみに焦点化させて、皆さんによりレベルアップした本校生の取り組みをご覧いただきたく、「キャリア教育成果発表会」から「アントレプレナーシップ教育成果発表会」へと名称を変更いたしました。当日は本校生と参加された皆様がともに地域の将来を考えることにより、年代や世代を超えた一体感を創ることができ大変有意義な会となりました。殊に2年生は少人数のグループが多く、テーマがより「自分ごと」に近づいており、学びの深まりと成長を感じさせてくれました。また、1年生はオンラインで進めてきた大学生との協働研究を活かした実践を発表してくれました。各学年ともにコロナ禍において活動が制限される中でも、できることを見出し精力的に取り組んでいて、その成長ぶりをご披露できる良い機会となりました。

本冊子は、「アントレプレナーシップ教育成果発表会」で発表した内容を主とする報告集です。昨年は全員が原稿を見ずに自分の言葉で語り発信してくれましたが、今年は動画やパワーポイント、その他様々な製作物等を用いてより表現力豊かに発信してくれました。吉高の「あたりまえ」をまた一つレベルアップできたことをうれしく思っています。今年の報告集は、続く後輩達にも参考になる多くのアクションを感じ取れるものに仕上がりました。ご一読いただき、本校生徒の成長を少しでも感じとっていただけると幸いです。

最後になりますが、いつもご指導をいただいている青山学院大学、大正大学、法政大学、奈良教育大学の諸先生方、そして日頃からご支援いただいております地域の皆様方に心より感謝申し上げます、巻頭のご挨拶といたします。



HAPPY
YOSHIKA  High School

成果発表会 吉高発信 プレナード アワード エデュケーション

参加費無料!!

2021
2月12日(金)

場所
吉賀町民 六日市体育館

時間
13:00開場 ~ 16:00

*こちらにもぜひご来場ください!
『サクラマスの“今”から、
まちの“未来”を考える』
~サクラマスプロジェクトフォーラム2021~
2月13日(土) 13:00~16:40
●六日市基幹集落センター
●吉賀町林業総合センター
●柿木基幹集落センター

プレゼンテーション
(13:30 ~ 15:30)
1年生全員: 9チーム
2年生全員: 16チーム

- コメンテーター
- 青山学院大学: 教育人間科学部
樋田 大二郎 教授
 - 大正大学: 地域創生学部
浦崎 太郎 教授
 - 法政大学: キャリアデザイン学部
寺崎 里水 教授
 - 青山学院大学: 教育人間科学部
大木 由以 助教
 - 奈良教育大学: 教育学部
樋田 有一郎 特任准教授



* 新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を徹底し実施します。ご来場の際は消毒・マスク着用をお願いします。
** 問い合わせ先 TEL. 0856-78-0029 吉賀高等学校

【日 程】

	開始時間	分	プログラム	備 考
1	13:00	5	オープニング	校長挨拶 2年生代表挨拶
2	13:05	5	講師紹介・説明	教頭より
3	13:10	20	発表スライド自由閲覧	来場者自由閲覧・発表者準備
4	13:30	60	グループセッション 5グループ×5プロジェクト	1年9プロジェクト 2年16プロジェクト
5	14:30	20	休憩	審査
6	14:50	10	代表プロジェクト発表・準備	各グループ講評者（大学先生）
7	15:00	30	ステージ発表	代表5プロジェクト
8	15:30	5	ふりかえり	中村美楠子先生
9	15:35	20	講評	樋田大二郎先生 浦崎太郎先生
10	15:55	5	クロージング	1年生代表挨拶 校長挨拶

【講 師】

青山学院大学	教育人間科学部	教授	樋田大二郎 先生
大正大学	地域創生学部	教授	浦崎 太郎 先生
法政大学	キャリアデザイン学部	教授	寺崎 里水 先生
青山学院大学	教育人間科学部	助教	大木 由以 先生
奈良教育大学	教育学部	特任准教授	樋田有一郎 先生

令和2年度 吉賀高校 アントレプレナーシップ教育 成果発表会

2021. 2. 12 (Fri.)
@六日市体育館

マスク着用・手指消毒 よろしくお願ひします



吉高の アントレ とは？

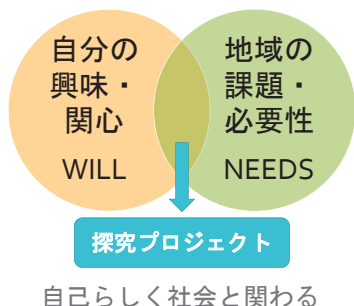
自分のやりたいことや興味のあること（Will）と、地域の課題や必要性（Needs）を掛け合わせて、それぞれが考えたプロジェクトを実施していく中で、「未来を創る力」を身につける探究授業です。

1年生はグループ探究で、青山学院大学・法政大学との高大協働研究を通じ、大学生と協働しながらプロジェクトを進めてきました。今年度はコロナ禍で全てオンラインとなりましたが、例年より多くの交流を行うことが出来ました。

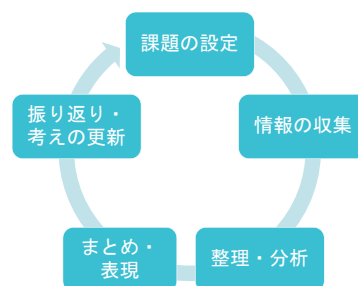
2年生は基本的には個人探究（ペア・グループも可）でプロジェクトを進めてきました。様々な興味関心からスタートした16のプロジェクトが生まれ、計画・アクション・ふりかえりを繰り返してプロジェクトを深化させてきました。

この授業を通して、「仕事が無いからやらない」ではなく「無いなら創る」起業家精神（アントレプレナーシップ）を養い、学校の先生や地域の大人と協働し、アクションを起こし、自分らしく社会と関わることを学んでいきます。

吉高の アントレ とは？



『探究』の サイクル



評価& 聴き手のメモ について

高校生&その他の観覧者のみなさん
プログラム8ページのルーブリック表を見ながら、Step 1～4のどの段階かを評価してみてください。（グループセッションは、ワークシートA記入）

2月12日 アントレ成果発表会 <<アントレ発表ルーブリック>>

	Step1	Step2	Step3	Step4	総括力
プレゼン内容	発表内容が明確で、聴き手に伝わりやすい。	発表内容が明確で、聴き手に伝わりやすい。	発表内容が明確で、聴き手に伝わりやすい。	発表内容が明確で、聴き手に伝わりやすい。	発表内容が明確で、聴き手に伝わりやすい。
スライドの工夫	スライドの工夫が、発表内容をより分かりやすくしている。	スライドの工夫が、発表内容をより分かりやすくしている。	スライドの工夫が、発表内容をより分かりやすくしている。	スライドの工夫が、発表内容をより分かりやすくしている。	スライドの工夫が、発表内容をより分かりやすくしている。
発表者の工夫	発表者の工夫が、発表内容をより分かりやすくしている。	発表者の工夫が、発表内容をより分かりやすくしている。	発表者の工夫が、発表内容をより分かりやすくしている。	発表者の工夫が、発表内容をより分かりやすくしている。	発表者の工夫が、発表内容をより分かりやすくしている。

探究のサイクルとは

```

    graph LR
      A[探究テーマの採択] --> B[課題の設定]
      B --> C[情報の収集]
      C --> D[まとめ・表現]
      D --> E[振り返り・考えの更新]
      E --> B
      E --> F[評価・振り返り]
      F --> A
  
```

ご来場ありがとうございました！！



令和2年度 吉賀高等学校
アントレプレナーシップ教育成果発表会
プロジェクト一覧表

グループ	学年	プロジェクト
壺	1年A	子どもが喜んで親が助かるおもちゃ
	1年G	吉賀町産業の発展計画
	2年	働く大人ドキュメンタリー動画を作ろう
	2年	吉高Instagramアカウントを作ろう
	2年	高校生にできる防災について考える
式	1年B	地域にカフェ的な拠点を
	1年H	奇鹿会と連携して吉賀町を盛り上げる
	2年	KOKYUTOILE®
	2年	自然を活かしたアスレチックを作る
	2年	吉賀町の文化を紙芝居で伝えよう
参	1年C	防災の情報を広めよう
	1年I	祭りの後継者を増やそう
	2年	音楽で地域の人を元気に
	2年	幼児の体力測定
	2年	田舎暮らしプロジェクト
四	1年D	町民が集まれる場所づくり
	1年E	若い世代に吉賀町を知ってもらおう
	2年	School Planetarium
	2年	Yoshika Project D
	2年	柿木地区運動会復活プロジェクト
伍	1年F	吉賀町を盛り上げる
	2年	吉賀町のゲームを作る
	2年	子どもと高齢者の思い出づくり
	2年	自然を活かした遊び
	2年	病院LED化
	2年	アートで病院を明るくしよう

子どもが喜んで親が助かるおもちゃ

1年A 井上 太一・山田 光琉・下野 未来・武岡 果音・野村 耀蘭

アントレ成果発表会

1年A班
井上太一・山田光琉・下野未来・武岡果音・野村耀蘭

①タイトル



『今高校生の私たちにできる吉賀町の子育てについて』



②きっかけ1

自分たちのWILL

- ・子供たちが遊べる(喜ぶ)ものをつくる
 - ・イベントをたてる
- ・おもちゃをつくる(自然をつかう)

②きっかけ2

自分たちのNEED

- ・サービスの向上
- ・危険なく子供を遊ばせる
- ・吉賀町に遊べるところを増やす
- ・若い世代が地域のことに参加する

③探究テーマ



子供がよろこんで親が助かるおもちゃをつくろう！

④探究テーマの目的・仮説

- ・自然を使ったおもちゃで遊ばせたいが、木のおもちゃの値段が高い。
- ・保育士さんやサロンのスタッフさんにアンケートをとり、勉強ができるおもちゃがあると助かると言っていた。
- ・オンラインF W先の荒川おもちゃ図書館のスタッフさんの話を聞くと子供たちはよくエプロンおばさんのおもちゃで遊んでいた。

☐ エプロンおばさんとは..布のおもちゃなどをつくる団体

⑤実践したこと

- ・町内の保育士やサロンのスタッフにアンケートをとった

子供たちは何のおもちゃであそんでいるか



7

⑥アンケートの結果

- ・なめたり、振り回しても安全なものと良い。
- ・パズル、すごろくやブロックなど頭を使う遊び、はしの使い方やボタンの止め方など教育のできるものと子どもの成長を手助けすることができるので嬉しい。
- ・ごっこ遊び用のグッズや神楽遊びの物など子どもの発想を豊かにするものが良い。
- ・木などの自然のもので作られた物で自然と触れ合い感性を豊かにするものが良い。

子供の成長の手助け・安全面を考慮したおもちゃがあると助かる

8

⑦アンケートの結果から...

木のキッチンと

フェルトのおもちゃを作ることにした！



9

⑧なぜそのおもちゃにしたのか

- ・木のキッチン
- 木のおもちゃは高いと言っていたから。吉賀町の特産の木を使ったから。
- ・フェルトのおもちゃ
- 食べ物などを覚えられるから。キッチンとセットにして使いたかったから。肌触りがいいから。

10

⑨どうやってつくるか(木のキッチン)

- ・木材がないので松原工務店さんに木材をもらえないか聞いた。
- ・木材をもらえたのでのこぎりなどで切っていく、やすりで削り塗装をし、こどもが怪我をしないようにしていく。
- ・自分たちの力だけで完成させていった。



11

⑩どうやってつくるか(フェルトのおもちゃ)

- ・フェルトや糸などを頼んでひたすら縫っていく。
- ・こどもたちが興味を持てるようにさまざまな食べ物をつくった。
- ・親子で一緒に遊べるように対話しながら遊べるおもちゃをつくった。



12

⑪考察

- ・木のキッチン
- 自然のものを使うことで、子供の感受性が豊かになると思った。
- ・フェルトのおもちゃ
- 中に綿を入れることで、見るだけでなく触り心地も楽しめることができた。



13

⑫自分たちの学びや成長

- ・計画を立て、実行することの難しさを学べた。
 - ・大学生や大人の方と話すことで、正しい言葉遣いを学び、伝わりやすい話の構成を知れた。
 - ・人から聞く話の重要ポイントを聞き逃さず、メモを正確にとれた。
- 自分たちには何ができるのか、何をすべきか考えられるようになった。

14

⑬今後の展望

- ・このおもちゃをどこに持っていか
- ・このおもちゃで子どもたちがよろこんでいるか確認する



15

吉賀町産業の発展計画

1年G 中川 綾音・永田 こずえ・松井 俊樹・山田 伊吹

～吉賀町産業の発展計画～

G班 中川 綾音 永田 こずえ 松井 俊樹 山田 伊吹

1

きっかけ・自分たちのwillと日常のneed

×イベントやお店などが少ない

×人が集まらない

⇒ **観光**や**産業**などでお金を循環させて

吉賀町を発展させたい

2

テーマの目的

産業で吉賀町の魅力を伝え、吉賀町の知名度を上げ、吉賀町に興味を持ってもらう



観光業など他の産業にも好影響を与えたい。

3

調べたこと・実践したこと

- ・産業について調べて、ふるさと納税について知る

納税品：納税額一位の宮城県都市には

896種類もある。

それに比べて、吉賀町は76種類しかない!!

4

調べたこと・実践したこと

- ・ふるさと納税の問題点
品数が少なく、若者が興味を引く物がない
↓だから、、
吉賀町の名産品である米を使った化粧水を作ろう

5

ふるさと納税産品について扱っている地域商社に参加してみよう！！！！

6

地域商社について

- ・吉賀町が地元で取れた農産物や加工品の販路拡大や商品開発を行う場所。
- ・2021年度の事業開始を予定している。
- ・町は4月に地域商社設立準備室を設けた。

7

濱口真一さんと地域商社でお話を聞いて・・・

お米を使った化粧水の問題点

- ・全員が使うわけではない
- ・肌に合うかわからない、有効期限がある

↓だから、、

8



木の良い点

- ・吉賀町の自然を生かせるから
- ・誰でも使える
- ・直接手に触れることができる
- ・有効期限がない

10

津田木工さんを訪問

- ・何が作りたいか分からない
- ・売る年齢層が決まってない
- ・販売ルートのも具体性は？



11

考察

どのような人に、
どのような物を、
どのような理由で、
商品をお売るかをお明確にしなければ、販売が困難になるため、具体的に物事を考える必要があると感じた。

12

今後の予定

具体的にターゲットを絞って
津田木工さんに**商品案を提案**する

13

チームの学びや成長

- ・一人できないことでもチームで協力すればできると知った。
- ・地域の人にアドバイスをもらい、自分たちの課題を発見することができた。
- ・考えている商品の需要や完成度の現実を知り、売れる商品を作る見通しを立て行動する大切さを知った。

14

働く大人ドキュメンタリー動画を作ろう

2年 下野 翔輝・吉井 美咲・増本 絃樹



きっかけ

Will

Need

- ・なりたい職業がない
- ・色々な知識を得たい
- ・車の良さを伝えたい
- ・イベントを行いたい

- ・将来なりたい職業が明確になっている人が少ない。
- ・どんな職業があるか分からない。
- ・仕事を知る機会が少ない。
- ・車の整備士は何をしているの？

2

イベントを行いたい

コロナ禍で難しい....



セブルールやプロフェッショナルなど
ドキュメンタリーって面白い！



このようなドキュメンタリー動画なら、
楽しく仕事を学べるのではないかな



3

プロジェクトの目的



この職業に興味を持った！
進路の方向が決まった！
少し将来に希望が持てた！

こんな声が増えたらいいな。。。

4

プロジェクトの仮説

- ・ になりたい職業がない。
- ・ 進路が決まってない。
- ・ 職業を知らない。



5

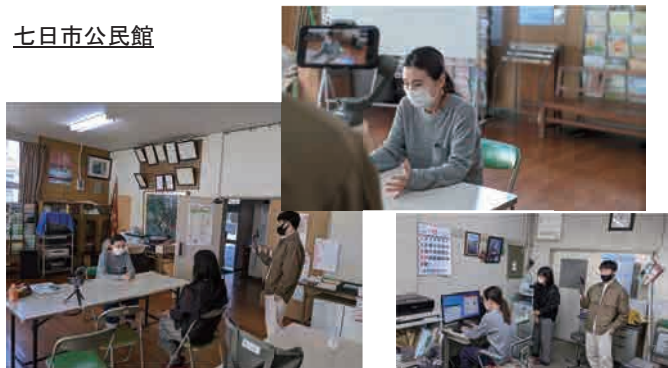
実践したこと

- 11/21 公民館で動画撮影
- 12/22 三松堂の阿部さんの動画撮影
- 1/27 天昌堂モータースの動画撮影
- ↳ 動画編集
- 2月中 yoshikagramに投稿予定



6

七日市公民館



三松堂



天昌堂モータース



実践したこと

- 11/21 公民館で動画撮影
- 12/22 三松堂の阿部さんの動画撮影
- 1/27 天昌堂モータースの動画撮影
- ↳ 動画編集
- 2月中 yoshikagramに投稿予定



10

実際に作った動画

11

学び

- ・ 実際に公民館主事の方の仕事を撮影して、今までは何をしていたのかわからなかったが地域の懸け橋となる素敵な仕事だと思った。
- ・ それと同時に仕事の内容を知る大切さを学んだ。
- ・ 動画撮影も大変だった。
- ・ コロナ禍で活動に制限がある中で、
別の道を見つけるという考え方を得ることができた。
- ・ 動画作成をする中で、大切な部分をわかりやすく
伝えるように作るのが難しかった。



12

今後の展望

- ・ほかの職業にも取材をする。
- ・ **もっとみんなにたくさんの仕事を知ってもらおう。**
- ・ 仕事に興味を持ってもらう。
- ・ 将来に希望を持ってもらう。
- ・ Instagram (yoshikagram)に投稿したい。
- ・ 後輩に受け継げるようにしたい。



13

吉高 Instagram アカウントを作ろう

2年 原啓佑・米原汰一

吉高のInstagram アカウントを作ろう

原啓佑 米原汰一

1

きっかけ

最初は吉賀町の知名度を上げたいという思いで吉賀町のInstagramアカウントを作ろうと考えた。しかし吉賀町役場などで話を聞く中で、町で運営していくとすると、公共施設以外をあげることは難しいことが分かった。

2

そのため吉賀高校のアカウントを作り、**高校生目線**で吉賀高校を広めるとともに地域の魅力を発信することがベストだと考えた。

3

プロジェクトの目的

インスタを通じて吉賀高校を広める
フォロワーが増える

↓

知名度アップ

4

実践したこと

11月18日にインスタアカウントを作って投稿を始めた。現在は部活動の結果などを中心に投稿している。

今後は生徒の目線での日常生活などを投稿していきたいなと考えている。

5

工夫したこと

今回インスタアカウントを立ち上げ、何を上げると見ている人が**楽しめ**、吉賀高校について**知れる**かなどを考え、どんな#をつけるか、文章を詳しく簡潔にまとめることを工夫をした。

6

学び・成長

今回のアントレを通してSNSで情報を広めるのは簡単だと思っていたが情報が無数にあるなかで投稿を見つけてもらうのは難しいと感じた。

7

今後の予定

現在フォロワー115人で少しずつ増えてはいるがまだまだ少ないので今後はどうやったらフォロワーや閲覧数を増やせるかを考え、投稿や宣伝をしていきたいと考えている。

8

まだフォローしてない人は

yoshikagram_1963

ぜひフォローお願いします！

9

高校生にできる防災について考える

2年 藤田 晶斗・桑名 颯司

高校生にできる 「防災」について考える

島根県立吉賀高等学校
2年 藤田晶斗 桑名颯司

1

このプロジェクトの目標

ざっくり言うと...
「防災の大切さを
伝える」
こと

2

なぜ防災 というテ ーマなの か

- ・警察や消防・自衛隊マニアの私にとって、興味のあるテーマだった。
- ・1年生の時に寮の前で大規模火災が発生したことで、防災を身近に感じたから

3

最初にやろうとしたこと

町民向けにチラシを作り、啓発活動を行う。

でもよくよく考えると

そのような啓発は自治体や消防が今まで十分に行っており、参加の余地がなかった。

4

方向転換

ならばと・・・

・吉賀町内に保存食のパンを作っている製造所もあったため、備蓄品についての啓発やパンのPRに方向転換！

5

フィールドワーク

その1

プロジェクトを始めるにあたり、吉賀町内で保存食のパンを作っている

NPO法人よしかの里へ。

保存食のパンを作るまでの経緯や法人のことなどをインタビュー

障がい者総合支援センター
「よしかの里」



6

まさかの出来事！

ある日、教育委員会から仕事の依頼が...

依頼内容

教育委員会主催の親子イベントで、日頃の災害対策についての講演をしてほしい。

7

イベント内容

日時・場所

12月12日（土曜日）

よしかの里にて

内容

親子でよしかの里のパン作りを体験し、焼き上がりを待つ間、防災クイズを行い防災への関心を高めてもらう。

8

イベント内容

9

イベントの準備

- 1.小学生が多いため、
難しい言葉は避ける
 - 2.簡単すぎず、難しすぎず
 - 3.親子で楽しく考えられる内容で
- ↓
- ・何度も打ち合わせを重ね、発表も完成！
 - ・当日のイベントにはテレビ局の取材も入る。
 - ・インタビューなどもある。

10

イベント当日

- パンを作り、缶に詰める作業も体験。ラベルも手書きで作成。
- パンの焼き上がりを待つ間、防災に関する講演を行った。



11

イベント当日 その2

防災に関する発表を行った。クイズを交えながら、防災の大切さを伝えることが出来た。



12

イベント当日の 振り返り

クイズを交えることで、興味を持ってもらいながら進めることができた。

最初の話し合いの時間がもう少し短くてよかった。



13

今後の展望

- 子ども対象だけではなく、高齢者に対しても、「知らせていく」ことが大切なのではと考えた。
- 防災に関わる教室をもっとやりたい
- 防災にとどまらず、防犯もやってみたい

14

この1年間で得たこと

- 人前で堂々と発表する力
- 自分で思っている事を相手に伝える力
- 行事の運営経験
- たくさんの人と協力して何かを成し遂げる経験

15

「老」講評者 浦 崎 太 郎 先生（大正大学地域創生学部教授）

<p>1年生 A 子どもが喜んで親が助かるおもちゃ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 身近な課題に注目し、子どもや親の笑顔を思って取り組んだ点は素敵だと思った。 ・ 「なぜ、他の誰かではなく、あなたが取り組んだのか？」が伝わると、より説得力があった。 ・ 今後における「仮説を立てて検証する」思考をとれるとよい。 →「～すると〇〇が△△になるのではないか？」と仮説を立てて、「～」を実行して実際に「〇〇が△△になったか」を確かめる。
<p>1年生 G 吉賀町産業の発展計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 吉賀町の「よさ」に注目し、これを活かしていこうと懸命に考えた点は立派だと思った。 ・ 他の自治体の実績から「アイテムの数と納税額との関係」や「アイテムの魅力度と納税額との関係」などを調査し、吉賀町では「どんなアイテムを1点ふやすと納税額が何円増加するか」を予想し、後々それを検証すると有意義ではないかと思った。ぜひ、そこにつなげてほしい。 ・ たしかに「木」は吉賀町の貴重な資源である。しかし、同様の市町村は全国に多数あるはず。他の市町村と比較して「吉賀町にしかない資源や強みは何か？」を探ると、さらに効果の高い対策になると思います。 ・ 「産業」という抽象的なテーマを出発にした分、いま様々な問いが浮かんでいるはず。その問いを大切に、2年生の活動へとつなげてほしい。
<p>2年生 働く大人ドキュメンタリー動画を作ろう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 身近で頑張っている大人にスポットを当てて調査を深めており、自分たち自身の学び、吉賀高生全体の学び、町内外へのアピールなど、すごく発展性があると感じた。 ・ 「この動画を通して、誰が、どんな状態（意識・イメージ等）から、どんな状態になるように誘うのか？」を具体的に想定して取り組むと、改善が加速度的に進むのではないかと思った。 ・ 具体的には、「このような点に留意した動画を見てもらえば、誰が、どんな状態から、どんな状態になるのではないか？」という形で仮説を設定して作品をつくり、実際にそうなったかを検証する、というサイクルを繰り返すとよいと思った。ぜひ、深めてほしい。
<p>2年生 吉高 Instagram アカウントを作ろう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ まずもって、公開されている写真は、高校生の日常が自然に伝わり、とても素敵だと思う。心を込めて、工夫して撮影している様子が写真を通して伝わってくる。ここをクリアできているだけで立派（…口で言うほど簡単ではないので）。 ・ 「SNSで発信」は大学生でも「発信しっぱなし」になりがち。「誰に届けるのか？」の視点を持ちながら、「どんな仕掛け（ハッシュタグ等）を打ったら、どんな変化が起こるのか？（いいね！が〇〇件ほど増える、等）」の形で仮説を立て、数字で検証できるとよい。
<p>2年生 高校生にできる防災について考える</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 抜群な主体性が認められ、大人から与えられたチャンスを最大限に活かし、協働しながら確かな実績で応え、関係性をさらに深めてきた歩みは素晴らしい。 ・ 高校生だけで完結するのではなく、大人に任せきりにするのではなく、大人とどのように協働すると目的をより十全に達成できるかを考え、結果として、高校生の活躍域を広げることに成功している点は、ぜひ後輩たちにも参考にしてほしい。 ・ 活動を通して、新たに実現した範囲を実感できている反面、未達成の部分の大きさも痛感できていると思う。ゆえにこそ「～という仕掛けをすると、今まで参加のなかった〇〇さんが参加するようになるのではないか？」という具体的な仮説を設定し、ヒアリング等を通して検証していけると、どんどん力量が向上していくのではないかと感じた。

地域にカフェ的な拠点を

1年B 森 匠陸・濱田 義寅・齋藤 泰稀・河村 海香・空内 恵里

Bチーム アントレプレナーシップ 成果発表会

森・濱田・齋藤・河村・空内

1

吉賀町に人が集まれる場所を

2

はじめに

私たちは、拠点について学んでいます。その目的として、日常的にみんなで集まって遊んだり、放課後集まる場所がないことに気づいたためアントレを通して誰でも気軽に集まれる場所作りに取り組んでいます。



3

探究テーマ

吉賀でスタバ的なもの作りをしよう

私たちBチームは、地域における快適で気軽に使える拠点作りを目標にして活動しています。地元の人に話を聞き、カフェのようなアットホームな空間作りを目指しています。



4

調べたこと

- ・旧校舎をつかえるかどうか
- ・廃校舎を使った各地のイベント
- ・自分達で調べたり、役場の方にどこが使えるか尋ねた。
- ・対象年齢を決める

5

実践したこと

- ・節分のイベントを開こうとしたが、安全性を考慮し断念
→相手に関しての配慮が足りなかった。子供と活動するためには、対策をしっかりと練る必要がある

6

今回の成果の反省

- ・小学生との活動を計画していたが、コロナで危険だという判断で中止になった。
- 自分たちだけではなく参加者がいるという点を見落としていた。参加者に対しての感染対策など、その場その場に応じた柔軟な対応が必要だとわかった。
- ・次の活動では、相手の要望などを聞いて計画を立てたい

7

その後

岩下さんと中村美楠子先生に呼ばれ2年生が取り組んでいる、シエスタを使った企画をしてもいいと許可をもらいました。

8

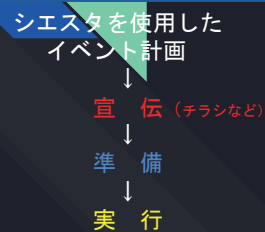
考察

- ・拠点を作る場所を探す前に既に地域の中で居場所作りをしていたシエスタを使用することに決定。
- ・節分のイベントが実行できなかった事から状況や相手の事を考えてイベントを考えなければならないと分かった。

9

今後の予定

イベントを行うまでの経過



イベントの例...

- 季節のイベント
- ・節分・七夕
 - ・バレンタイン
 - ・ハロウィン
 - ・クリスマス
- その他
- ・料理教室(お菓子作りなど...)
 - ・地域マラソン
 - ・地域清掃

10

チームの学びや成長

〈学び〉

- ・チーム全員で企画の発案をした
- みんなで協力して何かをすることの大切さを学んだ

〈成長〉

- ・町の人の声を聞き意見を集めた
- 人と協力、学ぶことができるようになり初めてのイベントをしようとした。
- が、コロナの影響でイベントができなくなりました。

11

今後の展望

・シエスタを利用したイベントをする

→季節ごとに行事関連のイベントを開催

・チラシを配って宣伝する

→多くの人の目につくようなチラシにする

12

奇鹿会と連携して吉賀町を盛り上げる

1年H 石井 匠・友重 貴尋・岡本 萌果・横内 万笑

吉賀町内を盛り上げよう

H班

石井 匠 友重 貴尋
岡本 萌果 横内 万笑

きっかけ

6月に地域の祭りに携わっている方にお話を聞いた

↓

そこで初めて奇鹿会という団体の存在を知った

↓

奇鹿会の祭りに対しての強い思いを教えてもらい、
奇鹿会とともに吉賀町を盛り上げたいと考えた！

奇鹿会について

- 祭りを盛り上げるのが奇鹿会
- 行事を通して、子どもと大人が一体化するものって良いな
という思いから奇鹿会設立！
- 奇鹿会主催の行事はなし・サポートのみ
- メンバーは年々上昇している(0歳から入れる)
→若い人が入ってほしいのではなく、
やる気がある人材が入ってほしいという思いがある
- きっちり話し合いをして活動をしている

自分たちの思い

- 祭りを盛り上げるということに縛られず、
吉賀町全体を盛り上げたい！
- 伝統・文化を知らない
→吉賀町の伝統や文化を知りたい！
- 自分たちで何か企画したい！

探究テーマ

高校生が主体となってイベントを企画し、
吉賀町内を今以上に盛り上げるには？

目的 イベントが少ないのもっとイベントを増やし
吉賀町内を盛り上げる

イベント→吉賀町の特産物を使い何か作る

- どの年齢層も来やすいイベント環境を作ることができる
- 吉賀町の特産物を使った物を、より多くの人に知って
もらうことができる
- 奇鹿会の活性化に繋げることができる

調べたこと、実践したこと

○奇鹿会の大和さんに話を聞いた

→私たちがイベントを企画したとき、奇鹿会がどのような援助をしてくれるのか分かった

○イベントを企画したことのある方や、地域のイベントにたくさん参加している方に話を聞いた

→誰をターゲットにするか、販売方法をどうするのか、具体的に考えていく必要があると分かった

7

調べたこと、実践したこと

○吉賀町の特産物である米と味噌を使い、
五平餅を作った

8

五平餅にした理由

○吉賀町に住んでいるすべての人を販売するターゲットとしていて、どんな世代の人でも食べやすいもの考えたから

○吉賀町といえばお米だという意見が出たため、それを使って販売する料理を決めたら五平餅になった！

○火を通すため食中毒などの心配が減る

→安心・安全！



9



10



11

五平餅を作ってみて・・・

○2時間以内に作る事ができた

○少し食べにくいサイズだった

→子供でも大人でも食べられるくらいの大きさで作る

○少しずつ味を変えてみたら良いと思った

→味噌の種類を変えたら面白いかも！

どんな調味料と合うか調べてみたい

12



大きさ

13



アレンジ

14

チームの学びや成長

○普段参加することしか考えてなかった自分たちが、活動を企画することで主体性を高めることができた

○吉賀町の現状、課題を知り、その課題を解決するための改善策を考えることができた

○1人ではできないことでも、チーム全体で協力すればできるということに気が付けた

○大学生や地域の方と接することで、物事に関心を持つことができたり、以前より積極的に行動できたりするようになった

15

今後の予定

○もともとあるお祭りで五平餅を販売できるようにする！

→出すんだったら人数がより多い六日市地区でのイベントで販売！

そのためには・・・

- ・イベントを開催している関係者の方に自分たちの企画していることを伝える
- ・細かいところまで考えていく



16

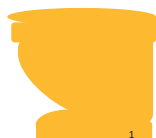
KOKYUTOILE®

2年 高橋 那央子


KOKYUTOILE®



黄金のごとく輝くトイレを目指して

高橋 那央子



1

 きっかけ

-  トイレ掃除が好き
-  世の中のトイレをもっときれいにしたい

そうだトイレの改革『**KOKYUTOILE®**』

2

👉 理念

これは吉校生ひとりひとりが、真摯にトイレと向き合うためのプロジェクト

吉校生の高い意識から生まれるトイレ

これぞ、『**KOKYUTOILE®**』

3

👉 目標

🗑️ トイレ掃除のマニュアル作成

🗑️ メーカーへの学校向けトイレの提案

4

👉 活動内容

零 トイレに関する文献を読み漁り、
トイレへの造詣を深める

壱 現状把握、課題の抽出

弐 ポスター掲示 ・トイレへの感謝の気持ちを醸成
・トイレの正しい使用方法の啓蒙

参 掃除マニュアルの作成

四 **KOKYUTOILE**コンクール
『DOKODA 一番きれいな』開催

5

零

👉 お勧め文献

椎名誠
『奇食珍食糞便録』

ローズ・ジョージ
『トイレの話をしよう』

6

壱

👉 現状把握

トイレ掃除の問題点を把握するために、10月21日、12月7日、12月24日、1月18日の4日間、有志5人によるトイレ掃除を実施しました。



7

壱

👉 収獲

🗑️ 個室数五つの女子トイレを細部まで丁寧に行くと少なくとも3時間以上かかる。

🗑️ 大人数でのトイレ掃除は狭いため厳しい。

🗑️ 古い汚れは取りにくい。

🗑️ 輪ジミは分かりにくい。

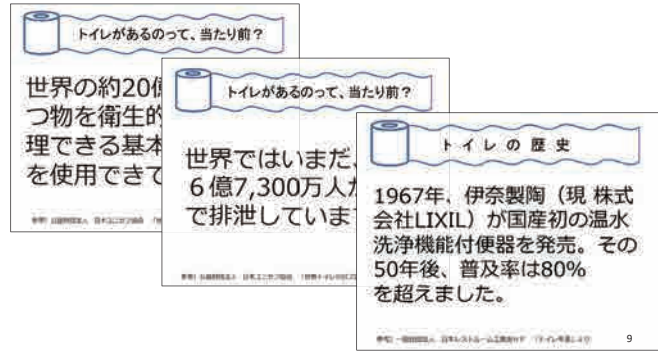
🗑️ 表面上綺麗でも便座の裏にこびりついていた。
見えないところまで綺麗にするためには、やはりマニュアルが必要。



8

貳 ポスター掲示

ポスター18枚を製作し、校内に掲示しました。



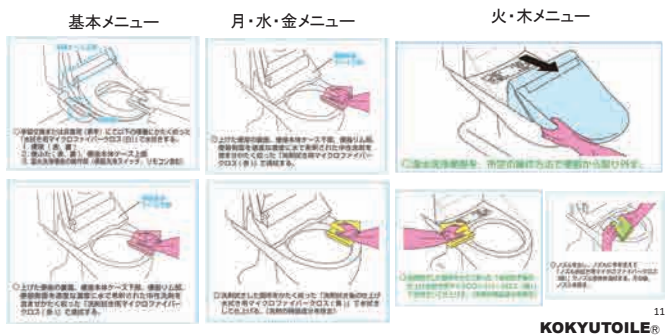
参 掃除マニュアル

公益社団法人全国ビルメンテナンス協会作成の「大便器・温水洗浄便座清掃マニュアル」を参考に、便器掃除について、毎日おこなう共通メニューと曜日に応じておこなうメニューを決め、

「KOKYUTOILE®マニュアル」

を作成しました。

今までの掃除の仕方に関する掲示では、便器掃除について大まかな指示しかなかったため、掃除する人により、どこを、どのように、どの程度まで掃除するかバラつきが発生していました。



気づき

“KOKYUTOILE®”プロジェクトにより一時的に吉高生の意識をトイレに向けさせることに成功するかもしれない、しかし継続できるか。

一過性に終わらせないためにどうすればよいのか。

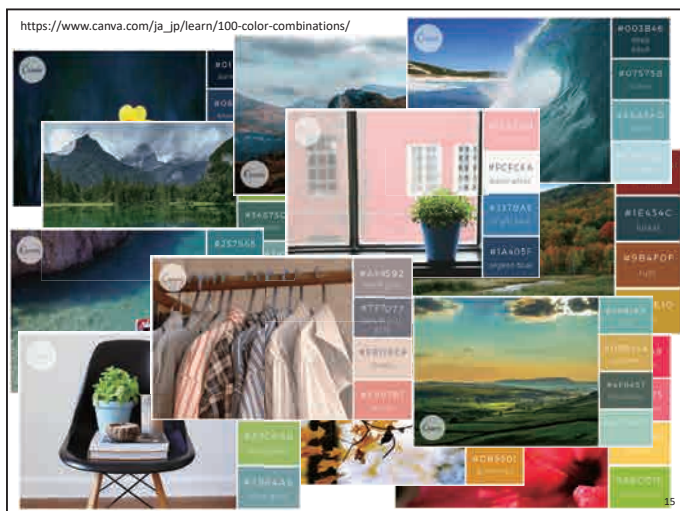
意識しなくとも、つまり無意識に綺麗にしたくなるトイレにはできないか。

吉高生の潜在意識に働きかけるトイレ環境を作ろう。



空間づくり





👉 トイレ同好会

トイレ同好会、名付けて
『トイレフレンズ』を結成しました。

👉 変化

高級
↓
恒久

…質の高い意識から生まれる

…トイレの綺麗さが永久不変

👉 学び

- 人の意識を向上させるには無意識的に意識させる工夫が大事。
- プロジェクトをする上でも仲間づくりをする上でもめげない心が大事。
- プロジェクトを深めていくことは**学びの連鎖**に繋がる。

👉 今後の予定

KOKYUTOILE®コンクール

『DOKODA 一番きれいなの』開催

- 各トイレ場所ごとに対戦
- 優勝チームにはプレゼントを贈呈

トイレ検定の開催

- トイレの歴史や機能、掃除の仕方などを問題にしたペーパーテスト
- 優勝者にはトイレに関するプレゼントの贈呈

図形の縦横比

👉👉

フォント: Arial black
◎のフォントサイズ: アルファベットの半分 **KOKYUTOILE®**

あなたのその思いが 吉高のトイレを変える！

メンバー絶賛募集中

自然を活かしたアスレチックを作る

2年 齋藤 大和・田中 陸士・田村 凜・松前 豊幸・河村 奈央斗

吉賀町の自然を生かして アスレチックを作る

齋藤大和 田中陸士 田村凜 松前豊幸 河村奈央斗

1

・現状

吉賀町には遊べる場所が少ない
→人の土地で遊ぶわけにはいかない

・目的

吉賀町に遊び場を作って地域を活性化させる

2

1.計画を立てる(設計) 2.場所決め(現場確認)



3

3.穴掘り



4.木材決め(切断)



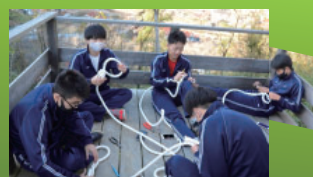
4

5.支柱建て 6.横の丸太を取り付け・ボルト締め



5

7.ロープあみあみ



8.足場の設置



6

・12月上旬に柿木小学校との交流を予定していましたが熊が出没したため交流は中止となりました。

・12月下旬に田村さんがプレパークに子供たちを呼んで交流会をしていました。



7

新たな課題

- 足場が不安定（揺れがすごい）
→子供が落下する恐れがある
- 足場の木が短い
→足場の木が外れて危ない



※2月3日（水曜日）に調整済み



8

完成



9

学び・成長

- ・今年は、一からやらないといけなかったのが、大変だった。
- ・計画や材料確保などが難しかった。
- ・技術が身についた。
- ・子供たちが楽しんで遊んでくれて良かった。

10

吉賀町の文化を紙芝居で伝えよう

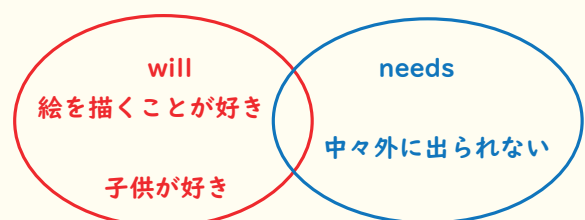
2年 河村 日南・師井 そら

吉賀町の文化を紙芝居で伝えよう

2年2組 河村日南・師井そら



きっかけ



2

「子供を笑顔にすること」

⇒Willとneedsのかさなったところから中々外に出られない子供たちを笑顔にするために、

私たちが好きな『絵を描く』ことを使って紙芝居を作る。



3

紙芝居完成までの流れ

1. 「ぼんぼりりん」の活動をされている図書館長さんと三浦ちづるさんのもとへ行きお話を伺う
2. 話を聞き、紙芝居の原稿をもらう
3. 原稿をもとに絵を描く
4. 下書きを見せて手直しをし、色塗りに入る
5. 紙芝居完成！！

4

活動

図書館に紙芝居を見せに行った (11/2)



朝倉小学校に読み聞かせに行った (12/14)



5

活動

萬歳楽の保持会の方々の前で発表 (1/20)



七日市小学校に読み聞かせに行った (2/5)



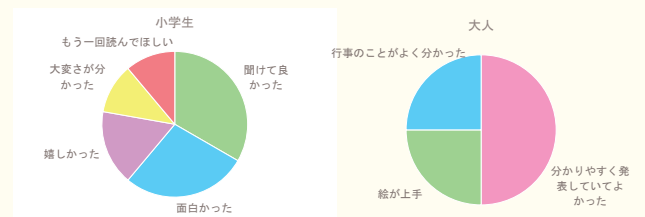
6



7

アンケート結果による考察

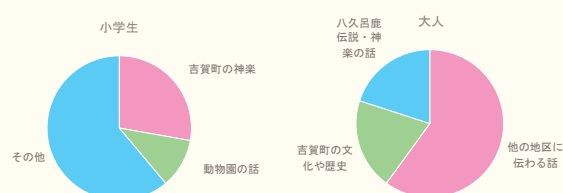
Q.この紙芝居を聞いてどう思ったか？



朝倉小学校 児童 20人 教職員 10人

8

Q.どんな紙芝居が観たいか？



9

ご意見・感想

- ・おじいちゃん役の方も生徒がやるとまわれると思う
- ・笑わずいえるといいと思う
- ・低学年には少し難しい内容だと思う

10

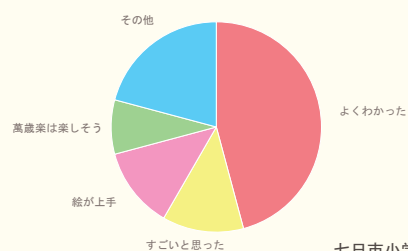
改善点

- ・ 準備を念入りにする
- ・ 抑揚や強弱をつける
- ・ 自分たちが読むところを増やす



11

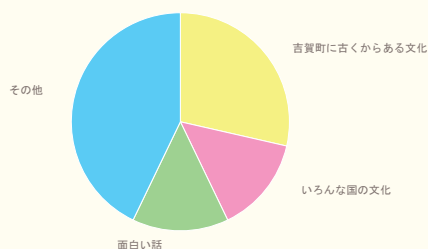
Q.この紙芝居を聞いてどう思いましたか？



七日市小学校 児童 15人

12

Q.どんな紙芝居が観たいか？



13

感想

萬歳楽はとても**大事な行事**だと思った

テレビで見るより紙芝居のほうが
おもしろかった

クイズがおもしろかった

14

今後の予定

1. 残りの3校をまわる（六日市・柿木・蔵木）
2. 図書館へ行き、録音・録画の調整
3. 県立図書館に寄贈する準備
4. ぼんぼりんにコピーしたものを寄付する

15

全体の反省

- このプロジェクトは最初は一人でやろうと思っていたが、二人でやることになりアクションを起こすことができた。
- 今後の予定も二人でこなして成功させたいと思う。ぼんぼりんや保持会の皆さん感謝の気持ちをもって活動していきたいと思う。
- 1年の時と比べて実践する難しさを学んだ
- いつも時間に追われている状態で取り組んでいたけど、たくさん協力のおかげでなんとかやり遂げることができたと思う。そこで、人と協力する大切さを学ぶことができた。

16

「式」講評者 寺崎里水先生（法政大学キャリアデザイン学部教授）

1年生 C 地域にカフェ的な拠点を

グループセッションでは、「居場所がないという発想がなぜ行事に？」「先輩たちがシエスタという拠点づくりをしたのに、さらに居場所がない？」などという質問をしました。とても厳しい質問に聞こえたかもしれませんが、次のようなことを考えていました。

まず、実際的な話をします。「地域にカフェ的な拠点を」という発想は、とても重要であるにも関わらず、その思いがアクションに反映されていないと感じました。プレゼンのときには「スタバみたいな場所がほしい」と言っていたと記憶しています。でも、実際にアクションに選んだのは小中学生への周知活動です。当初の思いとは結び付いていないように見えます。どうしてそういうアクションにおすびついたのか、経緯をプレゼンで説明してほしいです。プレゼンの仕方がある程度決められていたのかもしれませんが、最初の思いから、活動に至った経緯がうまく説明されているように見えませんでした。

次に、「地域にカフェ的な拠点を」というテーマは、とても重要なのではないかという点です。このテーマは毎年、複数の生徒さんたちから聞かれるものです。ということは、本当にはないんですよ、吉賀町には高校生の居場所が。高校生のような、大人になりかけの年代の人たちが、なんとなく集まってこられる場所がないことは、切実な社会問題として考えることができます。数年前、コンビニの前でたむろする若者が社会問題になったとき、小中学生や働く大人の居場所はあるのに、学校に通う若者世代の居場所がないからではないか、ということが議論になりました。吉賀町に、みなさんのような世代の若者が自由に集まって活動できる場がないのであれば、それはぜひ、解決の必要な課題として取り上げるべきだと私は考えます。ですから、「カフェ的拠点がほしい」という思いはとてもいいものです。安易に小中学生への周知活動にすり替えるべきではありません。

そして、そう考えると、ちょっと町の人や先生に相談したくらいでは解決できない課題だということもわかると思います。シエスタがあっても、図書館があっても、それじゃなんか違うと、高校生は感じているわけですよ（違わなかったらもう「拠点がほしい」なんて思わないはずですから）。だとしたら、どういうふうに「なんか違う」のか、みなさんはどういう意味で「カフェ的」「スタバ」「拠点」と言っているのか、もっと懸命にことばを尽くして考えなければなりません。その姿勢が探究です。あるいは、吉賀町にはおしゃれなカフェ的空間は1つもないのでしょうか？1つでもあるなら、そこが、みなさんのいう「カフェ的な拠点」とならないのはなぜか、高校生にとってその空間はどんなのかなど、今ある町の資源について、しっかり考えてください。そういう探究を繰り返したうえで、旧校舎がもっとも適切なスペースだと考えて、旧校舎の利用を思いついたのならいいのですが、空いてるから使いたいでは、きっと「なんか違う」空間がもう1つできるだけになったでしょう。

さらに、ほかの自治体の実践例を探してみてください。高校生用の自習スペース(居場所)を公共の空間に設けている自治体はいくつかあります。駅の待合室の一部だったり、商業ビルの一角だったりします。高校生の居場所を高校だけにとどめず、町のなかに用意してほしいと主張するためにも、たとえばよその自治体ではどうしているのか、調べてみることをお勧めします。場所や利用方法の実例を調べることで、若者が利用しやすい空間づくりがわかると思います。

以上のようなことを考えると、使える場所を探して活動したことをもって、試行錯誤をしたから「オーナーシップ」があると評価することは可能です。拠点がほしいという思いも「オーナーシップ」があると評価できます。プレゼンの技術や内容が物足りないものになっていたことは、与えられた発表フォーマットや短い時間のなかで、今後の伸びしろの大きさを示すものとして、期待を込めて好意的に評価したいと思います。では、吉賀町のことをよく知って、町に足りないものを訴える探究活動という、一番重要な点で、自分たちの思いの「本質」に鋭く迫れたのでしょうか。高校生の思いは高校生自身で説明するしかないのに、残念ながらそこは楽をしたように見えます。小手先のアクションでは解決できないほどの重要な問いに、そうとは気づかず取り組んでしまったんだろうと思います。いいテーマなので、投げっぱなしで、引き続き取り組んでもらえればいいなと思います。応援したいです。

1年生 H 奇鹿会と連携して吉賀町を盛り上げる

奇鹿会と五平餅の販売との関係が、いまひとつピンときませんでしたが、五平餅が吉賀町の祭の1つの目玉になるかもしれない、というワクワク感がよく伝わってきました。地産地消という考え方に合致した、いいアイデアだと思いました。

そのワクワク感、これで吉賀町を盛り上げるぞ〜！という熱い思いを伝えるためには、食レポの巧みさ、周りの人を巻き込むプレゼン技術が必要です。今回のグループセッションでは、五平餅の魅力について、町の人にぜひ、ごん助けてもらっていました。あれがみなさん自身でできるようになるといいなと思います。

五平餅の大きさ、見た目、味付け、トッピングをいろいろ工夫してみた試行錯誤の話は、とても面白く聞きました。どういう層にアピールするのかをもっと考えると、より具体的に話が進んでいくと思います。たとえば、高校生のような若い人たちに買ってほしいのであれば、価格や味付けに特徴があるでしょうし、なによりカロリーが気になる場所です。小学生くらいのお子さんがあるご夫婦に買ってほしいのであれば、家族でシェアできること、子供のためにも濃すぎない味付けで、かつ1つが大きすぎないことなども重要でしょうね。都会の人に食べてもらうことを考えると、見た目のインパクトが必要ですし、飽きが来ないように四季折々で違う食べ方の提案があるといいなと、いろんなことを考えながら、今後、試行錯誤が進むと面白いなと思いました。

五平餅づくりの実際云々から離れて、少しシビアな話をすると、2点、考えてほしいことがありました。

第一に、祭で五平餅を販売することが吉賀町を盛り上げるという点にどういうふうに結びつくのか、具体的に考えてほしいと思いました。そのためには「盛り上がった吉賀町」がどういう状態なのかを考える必要があります。すべての活動には目標(ゴール)が必要で、目標はできるだけ数値、条件など、達成したかどうか客観的に分かるような指標が望ましいです。たとえば、高校生であるみなさんがこの活動を通して「新たに顔見知りになった町の人が〇人いる」という指標をおくのは、とてもいいと思います。具体的な目標をおくことで、そこに到達するためのステップを明確にすることができます。いろいろ考えて、工夫してみてください。

そして第二に、五平餅の販売を通して、どういうふうに奇鹿会の活動に対する理解が進み、熱意ある参加者が増えるか見込んでいるのか、そのへんのメカニズムも具体的に考えてほしいと思いました。プレゼンを通して、この話はまったくなかったと記憶しているので、高校生の活動に協力してくれた会の方への誠意として、考えを示してほしいなと思います。

次に吉賀町に行ったときに、美味しい五平餅を食べられることを楽しみにしています。

2年生 KOKYUTOILE®

学校のトイレ掃除という、一般的には人に嫌がられる仕事を、おしゃれで快適な空間を演出するポップで楽しい活動として読み替え、多くの人に魅力を感じさせ、実際に活動に巻き込んでいった、とても力のある活動/発表だったと思います。また、そもそも汚くする気が起きないように仕向ける環境型権力を発動させた空間づくりの実践として、理論的な裏付けをもっている点も興味深いところでした。

活動単体としてはとてもおもしろく発表を聞いたのですが、様々な年齢層の人たちや学校の外の人たちとのかわりの有無、今後の活動への広がりということを考えたとき、まだまだ大きな伸びしろがあると感じました。人を巻き込む力を持っているので、今後、どういうふうに展開していくのか、楽しみにしています。

2年生 自然を活かしたアスレチックを作る

山のなかで木を切ったり、ロープを結んだり、穴を掘ったり(穴に先生が落ちたり)、とても充実した活動だった様子がうかがえました。誰一人休むことなく、暑い夏に活動をしたのですから、主体性はばっちりだったと思います。プレゼンでは他者との協働性を強調するあまり、自分たちがいかに汗をかき、楽しみながらこの活動を行ったのか、活動を通して関わった吉賀町の大人たちのことをどういうふうに思ったのかといった点について、ほとんど聞けなかったことが残念です。ぜひ、実際の利用者とかかわってほしいし、今後、どういうふうに施設を維持するのも真剣に考えてほしいと思います。よその地域のエコパークの運営方法、自然環境の保存具合について、参考に

なるので調べてください。

活動を通して、子供を持つ親の心配や不安、それらに配慮した工夫に気づくことが多かったと思います。こんな工夫が必要なのか！という驚きをもった目で、今、生活している周りの風景を見直してみてください。学校や店、役場など、いたるところにそういう配慮や工夫がなされていることに気づくと思います。みなさんが活動を通して得たのは、遊具を作るうえでの技術や作り上げた充実感、自信だけではなく、立場や年齢の違う人の「まなざし」をもって世の中を見る力です。今後の生活にいかして行ってください。

2年生 吉賀町の文化を紙芝居で伝えよう

このままだと失われてしまうかもしれない吉賀町の貴重な文化を記録に残し、次の世代に伝えていく活動として、とても価値がある活動をされたと評価しました。また、活動を通して様々な世代の人たちに誠実にかかわっているところも、とてもよいと思いました。紙芝居を読み聞かせる技術や、小学生にとって本当にわかりやすい内容になっているのかというところは今回、評価できなかったのですが、少し見た感じでは、かなりの伸びしろがあるように思いました。次の世代に伝えるという点でわかりやすさや訴えかける力はポイントになるので、ぜひ技術を磨いてほしいです。

今後の期待として、萬歳楽だけではなく、ほかにも存続の危機にある文化があるだろうと思うので、それらを取り上げて紙芝居のバージョンを増やして行ってほしいと思います。小学校の先生のアンケートでも、他地域の文化が知りたいという声が多かったように記憶しています。期待しています。

防災の情報を広めよう

1年C 三原レイナ・黒田凜・伊藤優希・川口加偉

C 防災&拠点

どのようにして
防災情報を広めるか

三原・黒田・伊藤・川口

1

きっかけ

- ・この町に安全で楽しめる拠点を
作りたかった。
- ・その前に、まずは今ある拠点を
広めようと思った。

2

自分たちのwill

→自分たちができることをまとめて、防災にむけたイベント
を開けるようにする。

日常の中のneeds

→ハザードマップや防災マップに書かれている情報をもっと
わかりやすく広める。

3

防災&拠点の目的・仮説

目的 地域の方に防災情報を広める

仮説 地域の方の防災についての意識が
更に高まるだろう

4

実践したこと

役場に行って防災情報について質問をした
教育委員会の方にイベントなど活動ができる場所を聞いた
(例) シエスタ、公民館など

5

考察

課題

防災知識を身につけている人が
少ないこと

6

その結果 . . .

地域の方々に集まってもらえるような
イベントを計画していく必要がある！！

7

チームの 学びや成長



8

・学んだ事

→災害時の避難所となる施設は、常に対応
ができる環境である事が分かった。

・成長した事

→班員と意見を共有しながら、話し合いを
進める事ができた。

9

祭りの後継者を増やそう

1年1 船木 雄斗・井上 愛梨・大谷 優羽・向井 優菜

伝統・文化・祭り

一年一組 1グループ

船木雄斗 井上愛梨
大谷優羽 向井優菜

1

きっかけ(自分たちのneedsと日常のwill)

Needs(地域や社会にとっての課題)

→祭り・神楽・イベントの若い後継者がいない

→祭りをするためのお金や材料が足りない。

(例)白谷神楽では、お面や衣装を買うお金がない(柿木)

水源祭りでは、藁不足・資金不足(蔵木)



2

きっかけ(自分たちのneedsと日常のwill)

Will (自分たちが興味を持っていること・取り組みたいこと)

- 祭り・吉賀町のイベントの少なさ・祭りの後継者の少なさ
- SNSで吉賀町をアピールする・六日市に偏りがちなイベントを七日市や柿木、朝倉、蔵木にも増やしていく
- 吉賀町役場、教育委員会に話を聞きに行く
- 吉賀町をPRするために動画作成(吉賀町の知名度up)

3

探究テーマ



祭りの後継者を増やすために 吉賀町をPRするには？

4

この探究テーマにした理由

- ・町内のバスマナーや祭り関係者の皆さんに話を聞いて、皆さん祭りの後継者不足に悩んでおられたから。
- ・吉賀町をPRして吉賀町に移住者を増やし、祭りの企画者さんの力になりたかったから。
- ・伝統や文化を多くの人に伝えていき受け継いでく後継者を増やしたかったから。

5

調べたこと・実践したこと

- 吉賀町役場・六日市公民館へFWIに行って吉賀町の現状について調べました。
- 祭りに関するアンケートを学生を対象に実施しました。(吉賀中学校の生徒の皆さん・高校生の皆さん)
- 柿木保育所にインタビューへ行き、保育士さんや園児に祭りのことや吉賀町の魅力について聞きPR動画の作成をしました。

6

今後の予定

- ・アンケート結果をもとに、何を実践するか話し合う
- ・来年に向けて参加しやすい祭りを考える
- ・一年のまとめをし、来年のそれぞれのアントレの活動に活かせるようにする
- ・お世話になった大人の方の話をまとめる

7

チームの学びや成長①

(4月から12月まで)

- ・アンケート等を通じて地元の中学生や高校生の意見を知ることができた
- ・役割分担をすることで、チームで協力して作業をすることができた
- ・吉賀町には、様々な祭りがあるが、どの行事も後継者不足に悩んでることがわかった
- ・普段関わらない大人と話すことで、いろいろな刺激をうけた
- ・問題を解決するための方法を話し合っ決めていくことができた

8

チームの学びや成長②

(12月から2月)

- ・アンケートや12月までの活動をまとめ、いろいろなイベントの案を考えた
- ・活動するうえでわからないことや、協力が必要な場合は積極的に公民館などに話を聞きに行くことができた
- ・コロナ禍によりイベントを企画したくても、できないこともあることを学んだ

9

私たちが考えていた企画案

～吉賀町の伝統に触れよう～

○内容

吉賀町の伝統文化である神楽や八鹿呂太鼓を小さな子供たちにも、触れてもらう

○対象

吉賀町の子ども

○なぜ実施できなかったのか

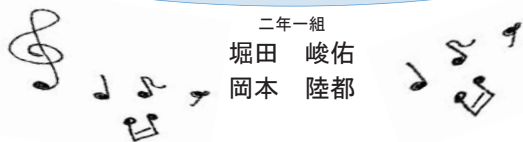
・企画から実行するまでの期間が短かった。・コロナウイルスの感染拡大の恐れ

10

音楽で地域の人を元気に

2年 堀田 峻佑・岡本 陸都

音楽で地域の人を元気に！！



きっかけ

・社会のneed

コロナでたくさんの行事がなくなって地域の人たちがさみしい思いをしている。
楽しみが減った。

・自分たちのwill

自分たちのできることで地域の人たちを元気にしたい。
笑顔を増やしたい。

仮説

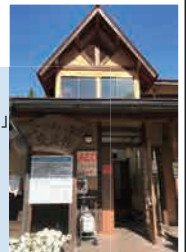
- ・僕たちが施設に行つて、演奏をすれば少しでも地域の人たちを元気にできるのではないかな。
- ・笑顔が増えるのではないかな。



実践したこと

・なつめの里で演奏（ミニライブ）

選曲「星影のエール」「ありがとう」「上を向いて歩こう」
「ふるさと」「もみじ」「幸せなら手を叩こう」
「レニーブルー」「I love you」



・白谷公民館での演奏（2回目）

選曲「泣き笑いのエピソード」「上を向いて歩こう」「もみじ」
「糸」「ふるさと」「ルージュの伝言」「ありがとう」

1回目（蓼野 なつめの里）



実施結果（インタビュー結果）

・インタビュー内容

Q「今日の演奏で元気はできましたか？」

A「元気になりました！」「また来てほしい」など
暖かい感想を聞くことができました！



2回目（白谷 白谷公民館）



2回目インタビュー結果

Q「今日の演奏で元気になりましたか？」

A「元気になった！」「畑仕事も頑張れる」「また来てね」

8

今後の予定と反省点

予定

- ・活動内容の引継ぎ（音楽部）

反省点

- ・緊張しすぎた
- ・練習時間の確保



9

まとめ

・2回目の感想

- ・前日に準備したことにより前回よりもスムーズに進めることができた。
- ・前よりも曲を知ってる人が多かった。
- ・全体
- ・人前で発表することに慣れ、音楽を通して地域の人を元気づけることができた。

10

感想

・とてもいい経験が出来た。
地域の皆さんがとても楽しんでくれたのでよかったです。
自分の将来に生かしていきたいと思います。
音楽を通して地域の人と触れ合いができ、とても楽しく活動することができました。
今後もこのような活動を残していきたいです。

11

幼児の体力測定

2年 米原侑汰

幼児の体力測定

2年 米原侑汰

幼児の体力測定をする

- Will
- 体を動かすことが好き
- 運動にかかわることをしたい



Need

- 小学生以上は体力測定があるが保育園ではほとんど行われていない
- 保育園の先生は具体的に苦手なこと、得意なことを知れる

目的

- 幼児の体力アップ
- 苦手をなくす（克服）

最初のプラン

- 時間を空けて2度体力測定を行う
- 一度目の後、幼児の苦手なことを改善
- 幼児の体力up



変更した仮説

- 体力測定を行う
- 一度目の結果をもとに、課題を分析する
- 課題改善になるような遊びを考えて行う
- それを継続によって体力アップ

体力測定種目

- 種目
- 25メートル走、立ち幅跳び、両足連続飛び越し、体支持持続時間、補球、テニスボール投げ、の六種目を年長、年中を対象に行う

7

補球とは→ボールをキャッチする



8

両足連続飛びこし→両足で障害物を飛ぶ



9

体支持持続時間→どれだけ自分の体を支えられるか



10

男子基準例

25m走(秒)	5点	~6.7	~6.2	~5.9	~5.6	~5.3	~5.0
4点	6.8~7.5	6.3~6.8	6.0~6.5	5.7~6.1	5.4~5.8	5.1~5.5	
3点	7.6~8.4	6.9~7.6	6.6~7.1	6.2~6.7	5.9~6.4	5.6~6.0	
2点	8.5~9.8	7.7~8.7	7.2~8.0	6.8~7.5	6.5~7.0	6.1~6.7	
1点	9.9~	8.8~	8.1~	7.6~	7.1~	6.8~	

<http://youji-undou.nifs-kac.jp/check.html>引用

11

実践したこと

- 10月21日 体力測定
- 6種類の種目を行い、その結果をもとに総合判定を出した



12

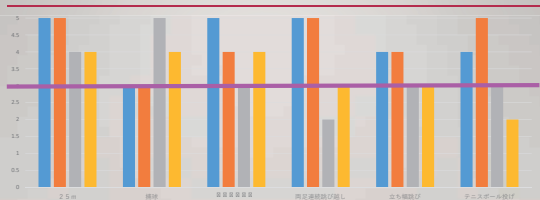
結果

男子結果



13

女子結果



14

結果・考察

- 全体的にバランスが良くほとんどの人が平均以上だった
- 数人平均より少し低かった
両足連続跳び越し、テニスボール投げが特に苦手
→改善が必要

15

仮説

- **テニスボール投げ**
 - 投げ方がおかしい子供もいた
→投げ方を教える必要がある
 - ボール遊びをより増やす

16

両足連続跳び越し

- 速さより正確さや、丁寧さを意識させすぎた
→測定に大事なポイントは意識させつつ速さも意識させる
- 東北文化大学・森田清美さんによると、これが苦手な子どもは、**縄跳び**や**フラフープ**や**ラダー**、**ケンケン遊び**などから類似した動きを経験する必要がある

17

改善のために

投げる運動

・ **的あて**

飛ぶ運動

・ **輪と、ラダーを使った遊び**

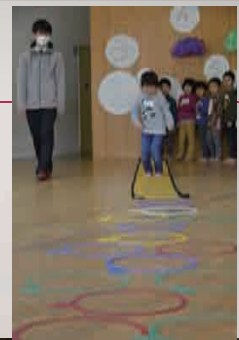
18

実施したこと

- 2月3日に改善のための遊びを実施した



19



20

感じたこと

- やはり飛ぶ動きは全体的に苦手だった
- 体力測定の結果通りに、苦手な子得意な子が分かれた
- やっていく内にだんだんできるようになっていった
- 楽しく遊びながら飛ぶや、投げる動きを改善できた
- **こういう遊びを続けてほしい**

21

一年を通して

- 天気、日付、道具など、かなり話し合いが大変だった。
- 継続が大切なのでぜひ誰かに引き継いでほしいと思った。

22



田舎暮らしプロジェクト

田舎暮らしプロジェクト

1

ふりかえり

1・2月の
アクション

1年間を
通して

稲刈り・はぜ干し体験
竹ぼうきづくり
しめ縄づくり
巻き寿司づくり
おせちづくり

今までのまとめ
パンフレットづくり

自分の成長・変化

2

ふりかえり

1・2月の
アクション

1年間を
通して

稲刈り・はぜ干し体験
竹ぼうきづくり
しめ縄づくり
巻き寿司づくり
おせちづくり

今までのまとめ
パンフレットづくり

自分の成長・変化

3

きっかけ

自然や特産物をもっと知りたい！
ここでしかできないことを
知りたい、見てみたい！

4

稲刈り・はぜ干し
竹ぼうきづくり
しめ縄づくり
巻き寿司づくり
おせちづくり

中間発表のふりかえり

もらったアドバイス

- ・どういうパンフレットなら手に取ってもらえるか工夫する
- ・キャッチコピーに工夫して制作すること

感想・気づき

パンフレット制作の時伝えることの優先順位をつける
何を伝えたい？
なんでこれをするのか？
することで何を変わる？
分かりやすさ・伝わりやすさを意識する

ふりかえり → 1・2月のアクション → 1年間を通して

稲刈り・はぜ干し体験
竹ぼうきづくり
しめ縄づくり
巻き寿司づくり
おせちづくり

今までのまとめ
パンフレットづくり

自分の成長・変化

はぜ干しの知恵
稲作の知恵
吉賀町 与虎園づくり

先人たちの知恵
竹細工の知恵
しめ縄づくりの知恵

はぜ干し体験
竹ぼうきづくり
しめ縄づくり
巻き寿司づくり
おせちづくり

今までのまとめ
パンフレットづくり

自分の成長・変化

ふりかえり → 1・2月のアクション → 1年間を通して

稲刈り・はぜ干し体験
竹ぼうきづくり
しめ縄づくり
巻き寿司づくり
おせちづくり

今までのまとめ
パンフレットづくり

自分の成長・変化

自分の成長・感じたこと

成長

PDCAを回していくことで、CheckとActionの組み立て方が理解できるようになった
地域の人とコミュニケーションを通して、人と交流することの楽しさを学びおせた
周りの状況と自分の状況を前より広く深く見れるようになった

感じたこと

今まで怖かったこと・不安だったことが少しずつ克服することができた
知らなかったことを知る楽しさや楽しさを感じた

「参」講評者 樋田 有一郎 先生（奈良教育大学教育学部特任准教授）

1年生 C 防災の情報を広めよう

防災についての発表とても興味を持ちました。吉賀町のみなさんが安心安全を感じて暮らしていること、それ故に防災意識が低いことを面白い発見だと思いました。これからの活動がとても楽しみです。

吉賀町では、これまで水害や積雪といった自然災害を経験していると聞きます。そうした災害はどのような影響を町に与えたかを調べてみるとよいかもかもしれません。ぜひ吉賀町の災害と暮らしの歴史を調べてみてください。今の安全な暮らしにたどり着くまでに様々な苦労があったと思います。

吉賀町だけでなく他地域との比較の視点も重要だと思います。東日本大震災の時には、東京から安全な島根県への1ターン者が増えたと聞きました。安心安全は重要な町の魅力だと思います。発表にもあったように吉賀町の人は防災に対して安心感があります。しかし、都市の住民はそこまで安心感を持つことは出来ないと思います。この違いはなぜ生じるのでしょうか。吉賀町らしい防災はどのようにできるのでしょうか。

ぜひ高校生の出来ることを考えて欲しいです。2019年には七日市で火災がありましたが、そのときは高校生がボランティアとして活躍したと聞きました。高校生が実際に出来ることも多いと思います。

ぜひ、大きな視点と実際に出来ることの両方を意識した活動を続けて欲しいと思いました。

1年生 I 祭りの後継者を増やそう

祭りの後継者不足の問題、大変重要なテーマだと感じました！みなさん自身が祭りの後継者であることを考えると、みなさんが本当に楽しいと思える祭りが重要だと思います。ぜひ、みなさん自身が好きなことをできるよう提案して欲しいです。活動はこれからが本番だと思います。少しエールをおくらせてください！人口減少で生じる問題は、人口を増やすという観点ではなかなか解決策は見つかりません。しかし、たとえ全体の人口が減ったとしても、希望を持って周りを巻き込んで新しいことにチャレンジしようとする活動的な人口が増えれば、地域は存続するし新しい魅力のある地域に生まれ変わるという考え方があります。量より質ということです。みなさんの活動が、新しく価値があり周りを巻き込む物ならばきっと、人口が減少していったとしても、地域を魅力的にすることに繋がるはずですよ。吉賀高校生らしい楽しく思い切った活動を楽しみにしています！

2年生 音楽で地域の人を元気に

お年寄りとの音楽の発表会とても心が暖まりました！高校生のみなさんにとっても普段とは違う環境での演奏となって違う経験ができたんじゃないかなと思いました。実現可能性がとても高い探究活動でよいなと思いました。お年寄りの方で楽しめる音楽をうまく選んでいるのもよいなと思いました。なによりも、高校生と地域のお年寄りとの間で心の交流がしっかり行えているのが最もよい点だと思います。

活動を残していくことが重要だということに共感しました。他の地域の高校さんの取り組みで、お年寄りが楽しんだり健康を維持したりするためのオリジナルの音楽と体操(?)を考えて、高校の代々の活動として残している例を見ました。地域から必要とされている活動だと思いますので、ぜひ吉賀高校オリジナルの取り組みとして残るようがんばって欲しいです。

それと、発表の仕方として実際にギターを持ち込んでみるとおもしろいのではと、先生方と話していました。地域から必要とされている活動としてぜひこれからも残るとよいですね！

2年生 幼児の体力測定

幼児の体力測定の発表ありがとうございます。とても、洗練された内容と具体的なアクションがあって圧倒されました！！きっと、吉賀高校生が幼稚園に来てくれて、幼稚園児も園の先生もとてもうれしかったと思います。高校生と一緒に遊んだ園児はきっと一生物の思い出ができたと思います。

完成されていてなかなかよいアドバイスがお渡しできず申し訳ないのですがいくつかお伝えさせてください。

体力測定をしてその結果を分析して、それに合った体操をするという内容だと思います。まず、体力測定の結果がとても興味深かったです。吉賀町の園児は、全国平均と比べて、ほとんどの項目で高い値が出ていたという結果が興味深かったです。この結果をさらに詳しく分析するとよいかもかもしれません。なぜ吉賀町の園児は運動能

力が高いのか考察してみるとよいと思います。きっと吉賀町ならではの、子どもにとっての何らかのよい環境があるのかもしれません。そして、そんな園児に対して提供する運動はどんな物がよいのか、ぜひオリジナルな物を考えてみるとよいかもしれません。ぜひ、他地域との比較の視点も含めて考えてみてほしいです。個人的には、実は吉賀町の園児はすごいんだということが分かっただけでも興味深い活動だと思いました。科学論文は必ずしもどの地域でも誰にでも適用できるとは限りません。そういった普遍的な知見を吉賀町にカスタマイズすることでさらに面白い内容になると思います。抽象的だったり全国的な視点と、吉賀町ならではの視点の両方を意識して活動をするとならばよくなると思います。ぜひこれからにつなげて欲しい素晴らしい活動です。

2年生 田舎暮らしプロジェクト

今回聞いた発表の中で一番感動しました！地域の人たちと関わる中で成長されたことがとてもよく伝わってきました。私が高校生の時は、そうやって向き合ってくれる大人が身近にいませんでした。都会の高校ではなかなかいないと思います。まさに、吉賀高校と吉賀町ならではの体験と活動をされたのだと思いました。

作られているパンフレット、とても吉賀町らしさが伝わってきました。これからさらによくなっていくんだと思います。もっと、自分らしさや地域のひとらしさを、個人に焦点をあてて出してもよいと感じました。発表から伝わってきたのは、自分と地域の人がお互いに交流する中で影響し合ったことでした。吉賀町や吉賀高校のよさは、人の魅力も大きいと思います。地域の人と出会い一緒に活動したことをより具体的に、お互いの出会いや交流や成長も含めて表現してもよいと思いました。これからの活動がとても楽しみです！

町民が集まれる場所づくり

1年D 向井 陽菜・藤村 唯花・田淵 洪憲・内田 優希・吉本 拓人

①アントレDグループ

～町民の人が集まれる場所作り、探し～

向井陽菜・藤村唯花・田淵洪憲・内田優希・吉本拓人

1

②きっかけ（自分たちのwillと日常の中のneeds）

- ・放課後に遊べる場所がない。
- ・地域の人との交流が少ない。
- ・Free-WiFiがない。



2

③探究テーマ

「町民が集まれる場所
作り・探し」

3

④探究テーマの目的

町民が集まれる様な場所を作り
交流するため

4

⑤調べたこと

【調べたこと】

- ・対象者を絞る、つまり七日市デイサービスのかたを対象にする
- ・何月にするか、雪など季節を考慮して上映会をする
- ・七日市公民館はバックアップしてくれる
- ・デイサービスの方はその日に合わせて動いてくれる

【これからの計画】

- ・一月から二月の間に映画上映会を一回する
- ・イス、テーブルなど映画上映会に必要なものを役場や公民館から借りる
- ・資料をまとめる

5

⑥上映会までのまとめ

【全体】

- ・旧校舎を利用して拠点づくりを計画
- 費用の問題でできない状況になったが林業センターで映画上映会をすることにした

- ・活動するにあたって、必要な情報を自ら得るためにFWIに行った

【内容】

- ・オンラインで話したときにもっと聞けばよかった
- ・使える場所が確保できた



6

⑦実際に going みて

- ・全体的に喜んでもらった
- ・映画の用意ができなかった
- ・声の速さなどの工夫がもっと必要だった
- ・クイズが楽しそうだった

7

・実際の映像



⑧考察

- ・七日市デイサービスから林業センターに移動できる利用者さんが限られていた
- 開催する会場をデイサービスに変更すると利用者さん全員が参加できる
- ・クイズを実施することで、高校生と利用者さんとの距離が縮まった
- 次回以降人と人が深く関わるイベントを考える
- カラオケ大会をするとよいのではと利用者さんからアイデアをいただいた
- ・映画の上映について
- 映画の上映は著作権の関係でできなかったが、その分利用者さんと高校生が関わる時間を確保することができた

9

⑨学びや成長

アントレの時間を通じて、、、

- ・地域の人との交流が増えた
- 色々な所へFWIに行く事が多かったから
- そのため、地域の人との関係が深まった!!

自分達の変化

- ・授業の時間外でも、積極的にFWIに行くようになった。
- ・もし映画が流せないときのための、代替りのものを用意して先をみずしておく



10

若い世代に吉賀町を知ってもらおう

1年E 泉友梨香・潮歩果・古泓龍希・三宅真

成果発表

Eチーム 泉友梨香 潮歩果 古泓龍希 三宅真

1

きっかけ&日常のneed

自分たちができること

- ・鮎などの吉賀町の特産物を使った料理
- ・自然を生かしたイベント作り
- ・自然を生かした映えスポット
- ・自然を壊さない

吉賀町の課題

- ・少子高齢化で若い人が減っている
- ・観光客、時により少ない
- ・吉賀町の認知度が低い

2

探究テーマ

若い年代の人が吉賀町を知ってもらえるプランは何なのか？

3

探究テーマの目的

なぜ、その探究テーマにしたのか

初めは…

幅広い年代の人が楽しむプランを考える

情報発信ができる年代を考えなければならない

→狙う年代を絞る

行動範囲の広い年代かつ情報発信ができる年代

若い年代の人を対象にしたプランを考える

4

探究テーマの仮説

実際に吉賀町に来てもらう

SNSなどを通じて吉賀町を知ってもらう

SNSなどに投稿

イベントに参加

5

実践したこと

—お話を伺った方々—

- ①大庭次男さん（若杉会会長）
- ②斎藤義徳さん（吉賀高校支援員/Yoshikaげんき塾）
- ③吉賀町役場企画課の方々
- ④オンラインフィールドワーク（大学教授の方・大和道さん）
- ⑤ピザ作り

6

実際にいった川の場合



ケヤキガルテン(柿木川)にて

・川辺までが険しいため持ち物が運べないし危ない



柿木道の駅裏にて

・道の駅はトイレや駐車場があるため多くの人を集めやすい

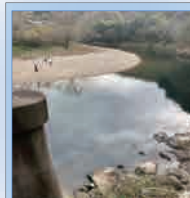
7

実際にいった川の場合



福川(柿木川)にて

・近くに畑などがあるため食材集めがやりやすい



杉山橋(柿木川)にて

・川辺までが険しいため持ち物が運べないし危ない

8

ピザ作りの様子



ペットボトルピザに挑戦！



吉賀産のトマト



吉賀産のしし肉

吉賀産のしいたけ

手作り窯



9

考察

色々な方のお話を聞いて

実際に試してみ

- 目的を明確にする
- 吉賀町の強みや弱みを知る
強み：自然豊か、弱み：高齢化
- 自分たちも楽しむ
- 基礎（安全や保険）の確立
- デメリットをメリットへ
→ 高齢化を生かす

- ピザ生地の発酵させる時間（約30分）
→ 川遊びやクイズなど
- お湯などの持ち運びを安全に
- 吉賀町の環境を豊かにする
→ ごみ処理など

10

今回の課題

食材調達

➡ 地元の食材を最大限に利用し、地元味溢れるものにするため

レシピ改良

➡ 限られた食材を使い、個性のあるものにするため

仕事の効率化

➡ イベントを催す際、量と数をこなすため



11

チームの成果

チームの学び

- 今あるものを利用し、創作することが大事である
- 主催者側も楽しめるイベントが理想的である
- 地元にある団体・企業に、協力を募ることも大事

チームの成長

- どうしたら良いものができるのかを模索し、考えることができた
- 力を合わせることの大切さを学んだ
- 吉賀町について深く知ることができた

12

今後の展開

想定している過程

イベントの計画・予定が確実にできるものである

↓

実際にイベントを開催できるようにする

今後の主な課題

- 食材 及び 煙の確保
- 実現可能な予定でどう開催するか
- アレルギーのある方でも食べられるものを思案する

13



4TH COFFEE



School Planetarium

2年 2組 前田 彩光

1

4TH COFFEE

①きっかけ

Will

- 夜空を見ていて星、宇宙に興味が湧いてきた
- 宇宙がどうなっているのかが昔から気になっていた
- 宇宙の誕生に興味がある
- 宇宙に対して不思議に思うことが多かった
- 夜空を見るのが好きだから

2

②プランの内容

簡単に言うと、、、

プラネタリウムを通して、
たくさんの高校生を
笑顔にしたい!!

4TH COFFEE

3

③どんな効果がありそうか

メリット

- ・星について知ることができ、夜空を見るのが楽しくなる
- ・心が癒される
- ・宇宙のことについてたくさん知ることができる

4TH COFFEE

4

④Planetariumの実施までの流れ

1. 今回協力してくださった「一般社団法人 星つむぎの村」と交渉
2. 学校との交渉
3. 日時決定
4. 実施

4TH COFFEE

5

学校プラネタリウム

- ・日程 1月29日(金)
- ・内容 講演会
ボックス型ミニプラネタリウム
プラネタリウム
ワークショップ
- ・参加人数 生徒8人 先生5人
- ・協力団体 星つむぎの村
- ・場所 吉賀高校

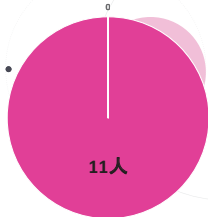


4TH COFFEE

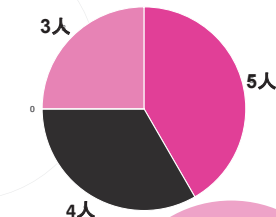
6

⑥アンケート結果

プラネタリウムを見る前



プラネタリウムを見た後



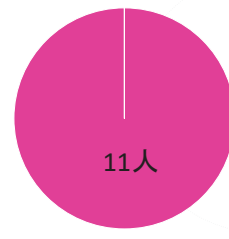
4TH COFFEE

7

感想やアドバイス

今後このようなイベントがあったら参加したいか。

- ・綺麗だった
- ・面白い会だった(とても興味深い)
- ・プラネタリウムは天井に映してみたかった
- ・お話しとても心にしました
- ・初めて知ったことが多くとても勉強になった
- ・授業では学べないようなことも学べ、楽しかった
- ・宇宙の広さを体験でき、面白かった。
- ・最初は興味がなかったけど、見ていくうちにワクワクして楽しく楽しかった



4TH COFFEE

8

⑦今回のアントレを通して学んだこと

- ・調整の難しさ
→時間・日にち・対象者など
- ・高校生が発案したことをたくさんの方が協力してくれた
→発信(言葉に)することの大切さ
- ・次へのアイデアに繋がった

4TH COFFEE

9

⑧これからの活動

- 高校生だけではなく、保育所・小中学校でも楽しめると思った。
→たくさんの所で発信する魅力を感じてもらいたい
幅広い世代に発信し、楽しんでもらう



4TH COFFEE

10


Yoshika Project D

2年 高橋 沙依・中村 南緒

吉賀町を多様性のある町へ

高橋沙依・中村南緒

きっかけ

- ステレオタイプが多い 
- 若い世代に多文化共生の意識を持ってほしい
- 吉賀町の多文化共生の取り組みが少ない

目的

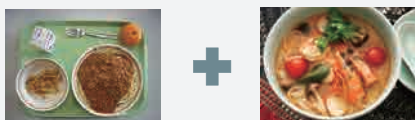
- 吉賀町から差別や偏見をなくし、地元の人もほかの地域から来た人もみんなが住みやすい町にする。
- 若い世代の多文化共生の意識を高める。

誰のため？

- 吉賀町に住む外国人
 - 理解の輪が広がる
- 吉賀町民
 - 偏見、固定概念が少なくなる
 - グローバルな価値観が身につく

プラン

町内の給食で他国の料理を提供し、その国についてのプレゼンテーションを行って生徒の理解を深める。



仮説

給食で外国の料理を提供 & その国のマナーや食文化についてプレゼン

生徒の、外国人に対する興味関心、知識が増える

生徒にとって、外国人が以前よりも身近な存在になる

偏見のない吉賀町への第一歩！

実際にやったこと

7

①吉賀町に住む中国人にインタビュー

- ・中国、中華料理について
- ・給食で提供するメニュー考案

8

②校長会でプレゼン

- ・プロジェクトについての説明
- ・質疑応答

9

③献立会議に参加

- ・栄養士さんと話し合
ってメニューの決定

四川省の料理



10

④本番(2月4日)

- ◎町内の少中学校の給食で中華料理を提供
- ◎七日市小学校にて、給食時間に5分間のプレゼンテーション
- ◎ZOOMで朝倉小学校、柿木小学校に配信
- ◎七日市小学校の5、6年生と10分ほどの質疑応答、交流



11

提供したメニュー



麻婆豆腐 干豆腐 キノコのスープ

12

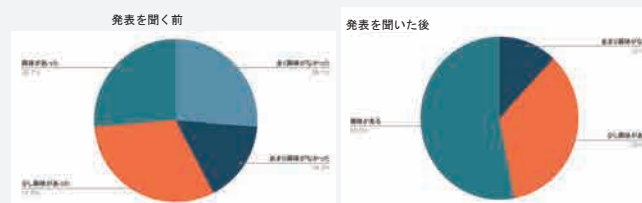
プレゼンテーションの内容

- ◎中国について
- ◎中華料理について
- ◎クイズ
- ◎まとめ



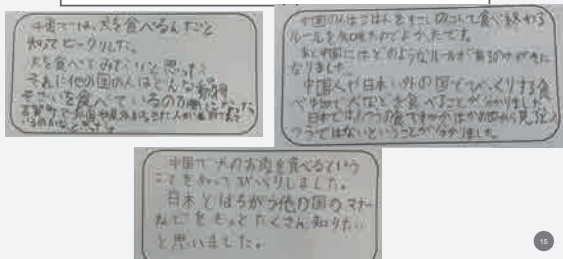
13

興味がどれくらい増えたか



14

感想



14

結果を振り返って

- よかった点
 - ・給食を食べるタイミングに合わせてプレゼンしたこと
 - ・内容や主張したいことを分かりやすく発表できた
- 改善点
 - ・質問の時間などプレゼン内容を深める時間が短い
 - ・プレゼンは実際に外国人に聞いた内容を多くする

15

今後のプラン

- ・他の国の食べ物で第二回目を開催
- ・吉賀町に住む外国人にインタビュー

17

柿木地区運動会復活プロジェクト

2年 青江 聖

柿木地域運動会復活！！

青江 聖

1

・WILL

- 1：自然を使ったイベントを行う。
- 2：吉賀町でしかできないイベントを行う。
- 3：全世代が触れ合えるイベントを行う。
- 4：県外から訪れた人も一緒にできるイベントを行う。

2

動機・目的

- ・コロナのせいで自粛になった時に、運動ができなくてストレスが溜まったことにより何か吉賀町で行えるイベントをしたいと思った。
- ・高1の時、初めてアントレ授業をした時から、イベントを行いたいと思っていたから。

1

どのようなプロジェクト

- ・「いろいろな人が触れ合えるイベントを行う」
例えば
 - 1・大人と子供と一緒にスポーツ
 - 2・山や川を使った遊び
 - 3・運動会的なのを行う
- ・「みんながしたいことを大人と子供と一緒にできるイベントをする」
 - 1・なるべく全世代にアンケートを取る（吉賀町内で）
 - 2・県外の人に広めるにはインターネットなどオンラインなどでアンケートや情報などを乗っける

2

プロジェクト変更・理由

・斎藤さんから昔、柿木地域運動会があったよって言われて復活するといいかもよってアドバイスをもらい、そうしようと思ったから。

3

○協力者

- ・柿木公民館の人達
- ・村上さん（柿木地域実行委員会）

○柿木地域実行委員会

- ・地域を盛り上げたいと思っている人たちが集まってできた実行委員会！！
- ・実行委員会の一人が村上さん！

○村上さんと話した理由

- ・坂田さんに地域のために力を入れている人がいるよと言われたから。
- ・僕のプロジェクトに賛成をしてくれたから。

4

公民館訪問（11月18日）

村上さんと話した内容！！

- ・柿木地域運動会は今年は難しい。
- ・若い人などが少なくなっていく地域運動会はなくなっていった。
- ・復活の協力を地域グループが手伝ってくれる。
- ・自分自身がしっかり動かないといけない。
- ・大人の考えより若い人の意見が欲しい。

質問

- ・いつ頃から始まったのか？
昭和37年～38年ぐらい
- ・誰が始めたのか？
役場の総務課（昔の）
- ・目的は何だったのか？
健康維持・交流・ふれあい
- ・なぜなくなったのか？
高齢者が多い・人が少ない・吉賀と柿木が合併したから
- ・形を変えて開催できるのか？
柿木地域実行委員会と協力したら何かしらのイベントはできる

5

これからの活動！！

- ・地域のグループと協力をして何かのイベントを行ったり、人が交流できる場所を作っていく。
- ・アイデアなどをたくさん考えていく。
- ・話し合いながら、柿木地域運動会を行う準備をしていく。

6

その後の活動！！

話す機会が取れず



- ・アイデアを出す
- ・スライドをまとめる
- ・これまでの内容をまとめる
- ・今までの活動の振り返り

7

活動のまとめ・感想

- ・一人でアントレを行って、まず第一に大変でした。でも一人でここまで頑張ってやってきて、達成感もあった。
- ・三年生になっても自分にできることがあったら、積極的にやっていきたいです。
- ・たくさんの人と話したりなどをしてしっかりかかわりなどをとれたので良かった。

8

これからの課題

- ・ イベントを行うことができなかったため、これから実行委員会が話し合いをするときには、できるだけ参加して話していきたい。
- ・ イベントを行える時にしっかり行っていきたい。



「四」講評者 樋田 大二郎 先生（青山学院大学教育人間科学部教授）

1年生 D 町民が集まれる場所づくり

発表を聞いていて、最初の計画を立てた段階から、次々とハードルが現われ、ハードルを乗り越えるために様々な努力をしたことを手に汗をして聞きました。発表に引き込まれました。計画は紆余曲折がありましたが、グループの力でハードルを乗り越えたところがすごいと思います。

どんなクイズだったのか聞く時間がなかったのが残念でしたが、楽しんで貰えたとのことなので、きっと一苦勞をしたものと推測されます。その苦勞をしたことがこのグループのメンバーの宝になっているのだらうと思います。施設から外に出て貰うというのはきっと施設側にとっては大騒ぎだったと思いますが、老人にとってはうれしい外出だったらうと思います。

地域の人が、急な仕事でも温かく迎えてくれたという体験は宝物ですね。そうした地域の人のために、来年は地域の側のニーズと自分たちのしたいことや出来ることとのすりあわせをしっかりと行ってください。

1年生 E 若い世代に吉賀町を知ってもらおう

E班は自分たちの想いを自分勝手に実現するのではなく、町のことを知る努力をしました。川原探しや料理とその食材探しは、簡単に決めるのではなくこだわりを持って歩き回って決めました。吉賀町ならではの企画にしよう吉賀町の良さの確認をしました。一生懸命な努力や工夫が町の人との出会いを深く、みなさんの町への想いを深めました。

また、みなさんが自分たちが楽しめること、吉賀町の若者が楽しめることという大きな目標を立て、ぶれることなく取り組んだことを素晴らしいと感じました。

みなさんがたどり着いた吉賀町の奥深さを、町外の人に知ってもらうだけでなく、町内の若者にも知ってもらいたいという考えに至ったということにも感動しました。

今後もEグループのみなさんが楽しみ、町内の若者が楽しめることを考えてください。そして、町外の若者に自分たちが楽しんでいる姿を紹介し、参加してもらってください。

イベントは最初はいかぬこともあるかもしれないし、予想以上にうまくいく場合もあるかもしれませんが、ただ、大事なことは失敗か成功かではなくて、意味のある成功や意味のある失敗をすることです。今後も意味のある苦勞をしてください。チームワークの良いE班にたくさんのご期待したいです。

2年生 School Planetarium

華やかな企画や大きな地域貢献をする企画も大事ですが、前田さんのように、自分が吉賀町で見る星が好きだから星にかかわることがしたかったという素朴な企画も大事だと思いました。

【質問】それまでは「美しい」にとどまっていた吉賀町から見る星々が、星座や星の名を知ることでより深く美しい「吉賀町の星々に感じられた」とのことでした。このことを経て、前田さんにとって吉賀町の町への思いはどう変化しましたか。

これからの人生の様々な場面で、前田さんらしい企画を大事にしてください。私にとっては、前田さんの企画は吉高生の地域への素朴な想いを知ることが出来るすぐれた取り組みでした。

前田さんは、ご自身のアントレ経験から、調査の難しさ、言葉にすることの大切さ、次へのアイデアに繋げることというアントレに重要な3つのポイントを示してくれました。また、1人で行うと、違う意見を聞けなかったという問題点を教えてくれました。アントレを自分事として取り組んだから、気づくことが出来たポイントだと感じました。きっと、前田さんはアントレでの学びを今後の人生に活かしてくれるだらうと安心して期待します。

前田さんが一生懸命取り組んだことに対して、みんなが楽しかったと言って貰えて、それがうれしかったという体験は、きっと一生ものの宝になりますね。

1年間、ご苦勞様でした。そして、いい発表をありがとうございました。

2年生 YOSHIKA PROJECT D

吉賀町には、実は多くの外国籍の人が暮らし働いています。私も町内で買い物をしている外国籍の人を目にすることがありますが、一体どんな人たちなのか分からない状態です。未知の人たちです。

このグループの取り組みは未知の状態が当たり前になっていることを、立ち止まって問い直した優秀な取り組みだとも思いました。当たり前を問い直すという作業は、なかなかできるものではないと思います。

他国の料理を食べながら、その国のことを聞くというプログラムは小学校の総合的な学習の時間では時折見かけることかもしれません。しかし、D(Diversity)を一般的な問題としてではなく、吉賀町の問題として捉えていることが素晴らしいと思いました。そして、それを生徒が企画・実施するというのは先進的なことだし簡単なことではないと思いました。

【質問】校長会でのプレゼンでは当日はどんな気持ちでしたか。準備のチームワークはどんなふうでしたか。また、小学校の運営についても学んだことがあったらと思います。小学校の学校運営についてどんなことに気づきましたか。献立会議に参加することで給食のシステムや面白さと難しさを学んだに違いありません。どんなことを学びましたか。

12日の発表では時間が足りなくて、取り組みのプロセスでのみなさんの気持ちや工夫、学んだことについてお話ししていただく時間が取れませんでした。みなさんの取り組みからは、達成したことだけでなく、苦勞したことや学んだことという宝物があったと思います。みなさんをお願いしたいのですが、結果ではなくて過程で身についた自信とか能力をしっかりと振り返っておいてください。

最後に、献立は「えっと思う料理」を選んだということですが、D(Diversity)を意識した取り組みゆえの選択だと感心しました。みなさんのDへの思いが深まっていたからそうした選択が出来たのだと思いました。

2年生 柿木地区運動会復活プロジェクト

このプロジェクトが何をしようとしているのか、どのような意味を持つのか、タイトルを見た段階では分かりませんでした。青江君の発表を聞いていくうちに、次第にすごいことをしたのだということが理解できました。

柿木地区という、個性の強いコミュニティを相手にしっかりと向かい合いました。コミュニティは疑問を持った人や思いを持った人が動くことで変わっていきます。柿木地区の音楽と花火がコラボする花火大会は、思いを持った人が動いて実現したと聞いています。

柿木の運動会を復活しようとした青江君の到達点は復活よりも手前で終わっています。しかし、意味のあるチャレンジだったと思います。拍手を送りたいです。スケールの大きい取り組みだし、コミュニティと真正面から向かい合っています。青江君の踏破した距離は大きいのではないのでしょうか。発表会では青江君が自分の想いを継続しようとする決意を自分の言葉で語りました。

青江君の取り組みや取り組みを通して成長した青江君のことを吉高の先生も柿木の人たちも尊敬していると発表会の後で聞きました。

柿木のコミュニティと向かい合い、コミュニティと青江君自身を揺さぶった今回の取り組みの意義を大切にしてください。

【質問】公民館長や地域の主だった人とお話をする時の気持ち、一生懸命思いを伝えようとした時の気持ち、思いが伝わったときの気持ちは、それぞれどんな気持ちでしたか。取り組み方で良かった点はどんな点でしたか。改善点はどんな点ですか。

※プロジェクトは成功か否かよりも、プロジェクトの後が大事です。振り返りをしっかりと行って、プロジェクトでの体験を将来につなげて下さい。

吉賀町を盛り上げる

1年F 兒玉 康生・成本 千騎・水村 美憂・河村 海音

Fチーム 観光

探究テーマ

どうしたら吉賀町を盛り上げられるか

メンバー

兒玉康生・成本千騎・水村美憂・河村海音

2.大テーマに関するチームのWILL

- ・吉賀町を盛り上げたい
- ・特定の年代に限らずたくさんの人を呼べるようにしたい
- ・吉賀町を知ってもらい遊びに来てもらえるようにしたい

3.大テーマに関する日常の中のNEED

- ・吉賀町の良さに触れる機会を増やす必要がある
 - ・吉賀町の魅力を発信していく
 - ・安全に参加できるイベントが必要
 - ・吉賀町といえばこれ！というものがはっきりしていない
(米？川？行事？神社？)
- 「〇〇のまち吉賀町」というような肩書がほしい

計画によるゴール

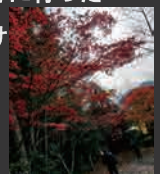
神社について調べる・キャラクター化する
↓
吉賀町に興味を持ってもらう・知ってもらう
↓
地域のイベントに絡めて来てもらう
↓
町おこし成功！！！！

4.探究テーマの目的

- ・吉賀町をにぎやかにしたい
→にぎやかになることで吉賀町に訪れる人が増え、吉賀町が潤うと思った
- ・吉賀町をより多くの人に知ってほしい
→知ってもらうことで県外からも来てもらえる

5.調べたこと、実践したこと

- ・町内の神社について調べた
- ・神社にキャラクター化の許可をいただきに行った
(今のところは奇鹿神社と新宮神社だけしか行っていない)
- ・キャラクター案(仮)を考えた



6. 考察

・吉賀町をより多くの人に知ってもら

◎具体的な宣伝方法は？

① SNS を有効活用

観光客が SNS に吉賀町の写真を投稿しそこから広がる
宣伝効果

7

◎年齢層やターゲットは？

①最初は コアなファン (神社マニアなど) や

若い10代~20代を呼んでいきたい

8

7. 現在進めているプロジェクト

① 町内の神社のキャラクター化

② 神社の整備や清掃のお手伝い

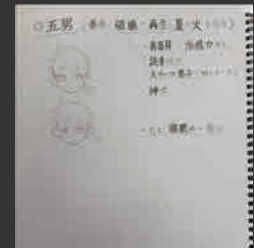
③ 神社の宣伝方法など



9

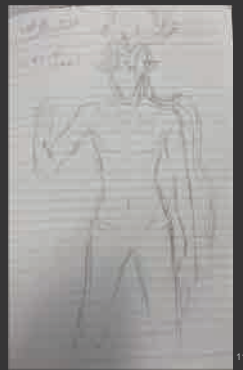
① キャラクター案(仮)

新宮神社 龍の像



10

ほかにもキャラクターのデザインは検討中です
七日市村史などをよみ参考にしてい
三浦千鶴さんに八咫鹿伝説についてのお話を聞く
→ キャラクターを作るための参考に!



11

② 神社の整備やお手伝い

祭りや月一回の神社の掃除などには参加してほしいとい
われた【今後日程を合わせていきたい】

③ 宣伝方法など

二年生が行っている インスタグラム の活動に協力してもら
いながら自分たちでも 広報活動 や s n s など行っていく

12

8. 学びや成長

・改めて深いところまで吉賀町の歴史を知ることができた

・神主さんが、様々な活動を行っていることが分かった
(御朱印づくり)

・アポ取りやいろんな人との関わりを通して相手の方と接す
るときの態度や話し方など、チーム全体として成長するこ
うができた

13

吉賀町のゲームを作る

2年 明渡 遼平

吉賀町のゲームを作ろう！

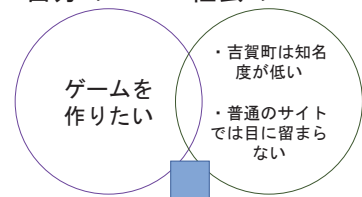


2年 明渡 遼平

1

きっかけ

自分のWill 社会のNeeds



吉賀町のゲームを作って
知名度を広げよう

2

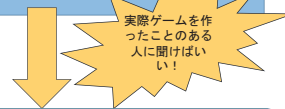
プロジェクトの目的、仮説

- ・吉賀町のゲームをプレイしたら、吉賀町のことを知らない人に吉賀町の良さを伝えられる。
- ・吉賀町のことを知っている人にもプレイしてもらったら、吉賀町の魅力について再確認してもらえる。

3

実際行った行動

ゲームを作るようになったが作り方がわからない...



「僕の夏休み」に似た「ワシの夏休み」制作した
ヒョーゴノスケさんという人に取材！



ヒョーゴノスケさん

4

ワシのなつやすみとは

- ・ヒョーゴノスケさんが作った作品
- ・PCで無料でプレイすることが可能
- ・目的は主になく、ただ田舎を駆け巡るゲーム

こんなゲームを
作りたい！



5

ヒョーゴノスケさんにインタビューをして分かったこと

- ・パソコンさえあればできる
- ・Unityというソフトを使うとゲームを作りやすい

実際にUnityに触れてみた。



時間がめちゃくちゃ足りない！！

6

ゲーム作成

新宮神社をモデルにゲームを作る



鳥居を作る

必要なソフト

- ・Blender(3Dグラフィック)



7

一人称視点のゲームを作る

プログラミングが必要



Unityで作成

8

これからの予定

- ・どんどん知識をつけていって「ワシのなつやすみ」の吉賀町版を作る！

学び、成長

- ・時間をもっと有効的に使わないといけないことが分かった

今後の展望

- ・残りの期間、3年生の間も含めて吉賀町のゲームを作成する

9

子どもと高齢者の思い出づくり

2年 岡本 ひなた・桑原 涼華

Our project

- 2-1 岡本 ひなた
- 2-2 桑原 涼華

1

プロジェクトテーマ

高齢者とこどもの
形に残るおもいでづくり



2

きっかけ

吉賀町は静かでさみしいと感じた
進路が保育関係だから

→町のお年寄りがハッピーになってほしい！

3

具体的に

長く続くつながり・形に残る思い出



アートで共同作業

4

7月29日

フィールドワーク 1回目

双葉保育所 園長先生 朋澤さん

5

インタビュー内容(保育所編)

Q 双葉保育所はほかの施設と定期的に交流をしていますか

A 主に老人ホームやよしかの里と行っている。地域の方が訪問してくれることもあります。

Q そこで何をおこなっていますか

A 一時間ほど歌や肩たたきなどをして、お昼ご飯を一緒に食べています。

Q 園児の人数は何人ですか

A 74です。



6

インタビュー内容(吉賀町編)

Q 吉賀町をさみしいと感じますか

A 表れているかは不明ですが、人の動きがみえないとは思いますが。

Q 人のうごきが見えないなとはどういうことか詳しく教えてください

A 家から目的地まで車で移動することなどです。人と人との出会いがない。



7

インタビューから立てた仮説

プロジェクト達成のために最初の架け橋を私たちが作る！

◎最初の関係を作れば今後独立して交流してくれるのではないかと

→検証をするために2施設を対象に自分たち企画のイベントをする

8

プランの概要

◎参加者

双葉保育所 年長さん 14人

老人ホームぎんなん 入居者さん 10人

◎内容

塩と絵の具を使ったアートをする

テーマは「秋」で各自好きなようにかいてもらう

→制作中にコミュニケーションをとるよう私たちが手助けする

9

11月18日

プラン実施！！



10

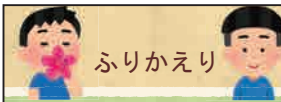
仮説の考察

◎今後交流を続けてくれるかは微妙

入居者さんがこどもの元気すぎる行動に疲れの色がみえた

こどもはこどもだけで話し始めると終わらなかった

11



ふりかえり

よかった点

- ◎ 全体的な雰囲気はよかった。
- ◎ こどもと高齢者の会話が多くみられた。
- ◎ 熱中してくれる人が多かった。

12

悪かった点

- ◎ 自分たちの準備不足なところがあった
- ◎ 保育園の先生とぎんなんの職員さんに助けを借りすぎてしまった。
- ◎ 忘れ物をした。



13

今後の予定

作った作品を一枚の絵にして老人ホームと保育所に贈る



アントレを通して学んだこと

岡本

- ・自分と年齢が大きく違う人たちをまとめるには相当な努力が必要ということ
- ・綿密に計画を練って行動に移すことは大変ということ

桑原

- ・元気な子供と静かな高齢者という相反する二世世代とコミュニケーションをとるのは大変だということ

15

自分たちの成長・変化

- ・行動に移す力がついた
- ・アポイントメントをうまくとれるようになった
- ・人との関り方がうまくなった

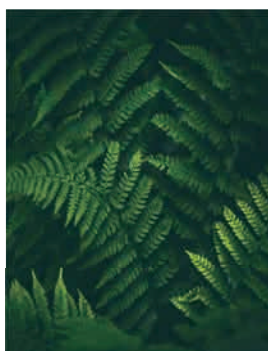
16

自然を活かした遊び

2年 赤松 一希・田原 匡悟・三家本 瑛琉・米田 晟輝

自然を生かした遊び

～小学生との交流で学んだこと～
2-2
赤松・田原・三家本・米田



探究テーマ

～内容変更前～

・吉賀町の自然を通して、子供から高齢者がふれあえる場所をつくり興味をもってもらおう。

～内容変更後～

・自然を使って小学生とふれあい繋がりをもち、自然に興味をもってもらおう。

～内容変更前～

柿木公民館の円山さんに吉賀町の自然をどのようにして興味をもってもらえるか相談をしに行った。



10月21日

・地域の人と下調べ

柿木のとちぎ川に自然を利用してたくさんの方と触れ合えるかを調べに行った。



～落ちていた木を使って火おこし～



12月11日

内容変更後

柿木小学校3年生に僕たちが計画していることを話し、協力してもらえるかをお願いしに行った。



- ・小学3年生が川のことについて勉強をしていたので僕たちと吉賀町の自然を使って触れ合えたらいい。
- ・小学生と自然で触れ合ったことをたくさんの人に知ってもらおうとともに、吉賀町の良さも知ってもらおう。



7

集合写真



8

1月27日

～ふれあう内容～

- ①火おこしの手順を教える。
- ②かわらで拾った石に絵をかいてもらう。
- ③山で拾ったつたを使ってリースづくり
- ④竹で作ったモルックで小学生に遊んでもらう。



9

1月27日

火おこしでは、僕たちが環境の授業で習ったことを一緒にした。
キャンプをするときに参考にしてもらえればいいと思った。



10

～リースづくり～



11

完 成 品



12

～モルックであそぶ～



13

集合写真



14

1月27日 終了



15

アントレを通して学んだこと

- ・企画をする場合は様々なことを想定して早めに計画することの大切さを学んだ。
※最初に計画していたことが新型コロナウイルス感染症の影響でできなくなったけれど、柿木小学校の協力で小学生とふれあうことができ吉賀町の自然をさらに学ぶことができたので良かった。
- ・目標をもって取り組むことは自分たちの成長につながると実感できた。
※準備が大変だったけれど、小学生に楽しんでもらえたのでこの企画をした甲斐があったと思った。
- ・先生はすごい！
※計画を一から考え準備して実現するのはとても大変だと気づくことができた。また、授業の内容を考え教えてくださる先生方は「すごい」と改めて感じる事ができた。

16



次できるとしたら、もっと吉賀町の自然について知ってもらいたい

17



おしまい

18

病院LED化

2年 深川心優

My project

病院をLED化
しちゃおう！

深川心優

1

1 プロジェクトのきっかけ

【自分がやりたいこと・取り組みたいこと】

- ・将来病院で働きたい
- ・プロジェクションマッピングをやりたい！

【地域 社会の課題・必要なこと 困っていること】

- ・病院のイメージが暗い⇒怖い
- ・暗いと、入院生活が充実しないのではないか？

2

仮説

- ①プラネタリウムによって入院患者が笑顔になる
- ②入院生活の充実度がUPする

3

2 仮説検証のためのプロジェクト

- ・日程 12月11日（金）
- ・参加人数 30人（入院患者対象）
- ・協力団体 星つむぎの村
- ・場所 六日市病院
- ・企画内容 『フライングプラネタリウム』をする
- ・費用 なし



- ・ライブ配信で星空を届けている
- ・専用プロジェクターやスマホで視聴可能
- ・感染症の心配な季節でも安心
- ・広いスペースにみんなで集まれなくても同時に同じ星空を見れる

4

一般社団法人 星つむぎの村 について

『星を介して人と人をつなぎ、ともに幸せを作ろう』
をミッションにプラネタリウムや星空観望会や星や宇宙に関するワークショップなどを展開している団体



5

開催までの流れ

- ・夏休み 六日市病院で普段のレクリエーションの内容を聞き取り
- ・10月7日 『星つむぎの村』 高橋真理子さんとオンラインで打ち合わせ
- ・10月21日 六日市病院でプラネタリウムについてプレゼン
- ・11月16日 『六日市病院』と『星つむぎの村』と当日の打ち合わせ
- ・12月2日 病院に窓の長さを測りに行く



6

12月11日（金） 当日



7

プラネタリウム実施後 アンケート結果（患者さん：30人）

①見る前の気持ち



②見た後の気持ち



8

③感想やアドバイスなど

- ・昔見に行ったことを思い出して、楽しかったです。
- ・夜空が見たくなった、帰ったら見たい。
- ・宇宙は広いなと思った。
- ・初めて自分の星座を知った嬉しかった。
- ・今生きていることがありがたいと思った
- ・また見たい。
- ・昔行った旅行を思い出した。
- ・星なんて興味なかったけど面白かった。
- ・懐かしい感じがした。

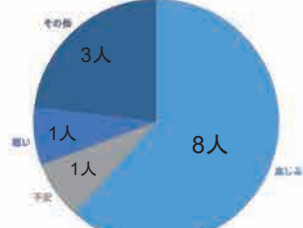
④また参加したいか



9

実施後アンケート（病院職員：13人）

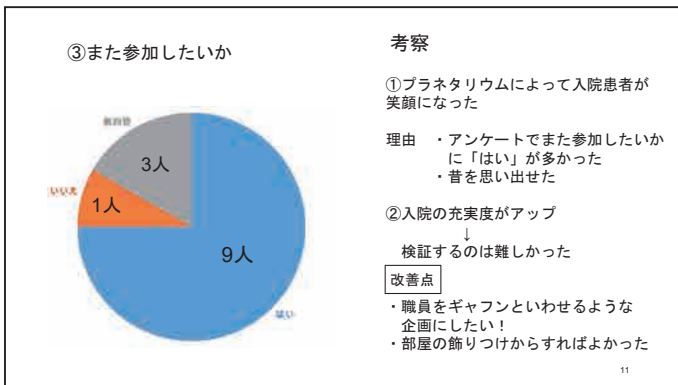
①見る前の気持ち



②見た後の気持ち



10



今回のプロジェクトを通して学んだこと

声に出す勇氣

何事にも自主的に動いていく気持ち

- ずっとひとりで考えることが多かったこと
- このプロジェクトをするにあたって、最初は何をするべきかわからなかったこと

12

これから...

- 第二弾もやってみたい! プラネタリウムだけでなく次はワークショップも成功させたい
- プロジェクションマッピングを作ってみる
- 将来の夢、やりたいことが増えた!!

13

アートで病院を明るくしよう

2年 中村彩七

アートで病院を明るくしよう

2年2組 中村彩七

1

プロジェクトのきっかけ

WILL

- モノ作りが好き
- 六日市病院に行ったとき暗いと感じた

NEED

病院の雰囲気明るくする

→病院に来られた方に明るい印象を持ってもらえる

安心感を持てるようになる

2

プロジェクトの 目的・仮説

目的

- ・季節に合わせて作成したものを飾り、病院全体を明るい印象にする
- ・リハビリステーションを利用している方に周りの人と手形アートを楽しんでもらう

仮説

- ・病院に来た人が作品を見て明るい印象を受けるのではないかと
- ・笑顔になって明るくなるのではないかと

3

計画したこと 実施したこと

計画したこと

- ・季節に合ったものを作る(自分で)
 - 病院の外来に飾ってもらう
- ・リハビリステーションの方と一緒に手形アートをする

実施したこと

二つ作品を作って病院の廊下に貼り、アンケートを行った。



4

実際に掲示してみた様子



5

アンケート結果

あまり意味がないと思う
13.3%

Q.このような絵を病院内にたくさん貼ることで病院の印象が良くなったり、明るくなったりと思いますか。

明るくなると思う	15	16	8	12	8	6
あまり意味がないと思う	2	0	3	3	2	0



6

まとめ

〇1年間のアントレを通して

自分の好きなことを生かしたプロジェクトができてよかった。

コロナ下で病院関係のプロジェクトは難しかったけど、状況に合わせて考えることができた。

コミュニケーションをとることは苦手だけど、アゴ電話をたくさんしたり直接話したりして、少しコミュニケーションをとることへの苦手意識が薄くなった。

7

「伍」講評者 大木 由以 先生（青山学院大学教育人間科学部教授）

1年生 F（吉賀町を盛り上げる）「観光:どしたら吉賀町を盛り上げられるか」

人に来て欲しい、そのためには”〇〇の町、吉賀町”というように、何かアピールポイントを見つけたい、そのポイントを”神社”に設定して取り組もうとしている、その方法として、神社をキャラ化させてSNSなどを通じたPRに使おうと考えている…という取り組みだと理解しました。

吉賀町PRのために神社に着目した理由は「神社に着目すると、歴史を知ることができる」ためということでした。「歴史を知る」ことが一つ目のポイントです。PRのために、神社をキャラ化させようとしている。「キャラをつくる」ということが二つ目のポイントです。また、PRの拠点とすることから、神社を整備していくことを想定しているということで、「神社の整備」が三つ目のポイントになります。

今は”キャラ”を具体的にしていこうとしている段階なのかなと聞いていました。では、町のPRに向けて神社をキャラ化する際に、どのようなことに気を付けたらいいのでしょうか。おそらく、その手掛かりは、神主の話や、歴史、整備しようとしている神社自体にあるのだと思います。さらに、町の人たちが神社に対してどのような思いを持っているのか、神社がその地域に暮らす人たちの生活とどのように結びついているのかといったことを知らなければ、作られた”キャラ”は独りよがりのもになってしまう可能性があります。

神主の方が「お茶を出してくれて嬉しかった」と言っていました。そうした感情の蓄積によって、人との関係は構築されていきます。そして様々な人と関わりながら、神社の歴史や建物などの特徴を知り、人の生活と神社との結びつきを知るという手続きを丁寧に踏んでいけば、キャラ化した神社を中心に、SNSで何を発信していくのかということがおのずと見えてくるのではないのでしょうか。

今まさにスタート地点に立とうとしているところですね。ここから”自分たちだけの世界”にならないように、これまでに築いた人間関係を大切にしながら、どのように取り組んでいくのか、とても楽しみです。

2年生 吉賀町のゲームを作る

吉賀町の知名度が低いと感じている、その理由は吉賀町を知る場(サイト?)がないから、あるのかも知れないが十分な周知はできていない、そこで吉賀町を舞台にしたゲームをつくらうとしている…という取り組みだと理解しました。

発表では、ゲーム作りをするための手続きについて学んできたことが示されていました。参考になるゲーム作家とやり取りをしながら、技術を身に付けているところなんだということが分かりました。難しい技術を獲得することが必要になる、難しい主題に挑戦していました。自分が楽しいと思いつながりながら進めているということがよく伝わってきました。

ただ、発表者もよく自覚をされているところだと思いますが、技術的な難しさもあって、まだ準備段階だということですね。在学中にどこまでできる/やるのかの見通しが必要になってきそうです。きっと、目下、技術面での問題をクリアすること、可能な限り商品化に近づけることに力を注いでいることかと思いますが、発表を見た限りでは感じました。でも、目指しているのは吉賀町の知名度を上げることでしたね。現実的な問題として、ご自身も既にわかっていることだと思いますが、在学中に吉賀町を深く知り、構想を完成させるということに軸足をシフトする必要がありますのだと思います。

今後の展望であり取り組みの目的を実現することにつながる手段である”吉賀町をフィールドにしたゲーム”を作るためには、当然、ゲームをつくるための知識/技術を身に着けるだけでは不十分ですね。目的に照らして意味のあるゲームを作るためには、ゲームの中で、吉賀町をいかに描出できるかが大きなポイントになります。その部分は、作ろうとしているゲームの存在理由にもなります。ゲームで描かれる吉賀町が、現実を模してはいるけど、現実とは乖離した世界になってしまうことを避けるためには、目に見える部分だけでなく、目に見えない部分も含めて、地域をよく知るという地味で大変だけれども、とても大切な手続きが必要になるはずですね。ゲームを知る/つくることに関して、発表後の質疑の際に、フロアから素晴らしい助言が出されていました。面白い発想に、応援したいという気持ちをもつ人たちは、町の中に多くいるのではないのでしょうか。

構想を具現化していくためにも、作ったあとのゲームを知名度向上のツールとして活用していくためにも、乗り越えるべきハードルは多いのだと思います。それだけに、着実に進めていくと得られるものも大きいと思います。遠くから応援をしています。

2年生 子どもと高齢者の思い出づくり

吉賀町は静かで寂しいと感じている、そうした町のなかで高齢者が幸せになってほしいという考えから、保育所の子供と高齢者とを芸術を通して結び付ける“かけはし”となるような事業を実施することを試みた…という取り組みだと理解しました。

発表では、保育所(14人)高齢者施設(10人)で、塩絵の具を使った作品づくりのイベントを実施したことが報告されていました。事業の実践を通して、保育所の子供との交流により、高齢者が楽しそうにしている様子が見られたということでした。一方で、エネルギッシュな子供と過ごすことで、高齢者が疲れている様子が見られたこと、異なる立場の人たちが一緒に活動する場面をまとめるのは難しいと気づいたことが、反省として述べられていました。大きな収穫ですね。

発表を聞いた限りでは、高齢者の実態が見えにくかったです。高齢者が寂しさを感じている、ということが取り組みの実施背景になっているわけですが、町の高齢者がどのようなことを感じながら生活しているのかをもっと掘り下げていくと、「寂しい」という言葉だけでは表現できないようないろいろな実態が見えてくるのではないかと思います。多様な声が集まってくると、迷うことも多くなると思います。苦しい作業が必要になるかもしれませんが、そのプロセスを経ると経ないとでは、行う事業の質は大きく変わってくると思います。

発表者は取り組みの継続性を意識して、“かけはし”という役割に注目をしていました。面白い役割に注目をしたと思います。自分たちが“かけはし”となって、連携や協働ということを目指しているということですね。ただ、これはよくわかってのことだとは思いますが、連携や協働は決して目的ではありません。「高齢者に幸せになってほしい」その実現のために、何と何を結び付けることが必要なかを考えることが大事になりますよね。そして、連携や協働といわれるような状況を作るためには、当然、結び付けようとしている各主体の実態をきちんと理解していく必要があります。

自分たちの実践についての反省がよくできていることが印象に残る発表でした。多くの人に助けもらったということも自覚されていました。それは誰にでもできることではありません。お二人の伸びしろの大きさを感じています。

2年生 自然を活かした遊び

自然を活かして子供から高齢者までのふれあいの場をつくりたい、豊かな自然を利用したいという思いをもったメンバーが集まり、公民館主事の円山さんに相談しながら小学生も巻き込みつつ事業をおこなった…という取り組みだと理解しました。

発表会の5グループの中で、代表にはなりませんでしたが、隠れた代表チームだと思っています。公民館の館長・主事、小学生・小学校の教師、そして地域の様々な立場の人たちと、多くの人たちの支援を得ながら行っていること、自然を活かした遊びが好きであるという思いをもって取り組みが進められていること、吉賀町ならではの良さを感じられるような内容になっているなど思いながら、発表を聞いていました。もっと堂々と、楽しみながら自分たちの言葉で発表していたら尚よかったと、もったいなく感じていました。

周囲の人が応援したくなる取り組みというのは、とてもいい取り組みだと思います。この班は、そうした力を持っているように感じました。その力は、メンバーが無理をしないで楽しみながら活動をしていることから生まれるのではないかと思います。「火おこしの際に小さいころからお世話になっている地域の方の支援を得られたことが印象に残っている」と発表されていました。そして、そうした支援は何しなくても“当然”得られるものではありませんし、“支援をしてもらった”ということを実感できなければ、その支援は二度と受けられるものではなくなってしまいます。公民館の方々と一緒に事業を行ったこと、川の学習をしている小学校3年生と一緒に活動することができたこと、コロナウィルスの影響もあり事業の修正をしなければならなくなったこと、苦労も含めて、どれもメンバーの皆さんが引き寄せた幸運であったのだろうと推測しています。「計画的に実施することの難しさ」「先生の仕事の大変さ」に気づけたという反省が印象的でした。これも大きな収穫ですね。

自分たちが楽しいと感じることを大切にしながら、自分たちができることを模索し、「自然を生かして子供から高齢者までの触れ合いの場」をつくるための準備を続けられるといいですね。公民館・小学校・地域の〇〇さんとの関係に感謝し、それを大切にしながら、持続可能なかたちを模索できると、魅力的な「場」をつくることができそうですね。

2年生 病院LED化

看護師・作業療法士になりたい・プロジェクションマッピングが好きだという気持ちをもとに、病院をLEDのように明るくすることを目指して、病院でのプラネタリウム事業を行った…という取り組みだと理解しました。

発表の形ができていた、アンケートをとるなど実態を知ろうとしていた、と、「良さ」といえる要素はいろいろありますが、発表者の楽しい・苦しい・くやしいといった、強い思いが垣間見える発表であったことが代表に選ばれた理由でした。困ったときに周囲に助けを求め助けられてきたということでしたが、それはとても難しいことでもあり、とても大切なことでもあります。そうしたことが窺えたことも、この発表の面白いところでした。TVで見た一般社団法人星つむぎの村の代表に、友人からの後押しを受けながら勇気を出して連絡を取り、病院でのプラネタリウム事業を実現させたということでした。後押ししてくれた友人、星つむぎの村代表の高橋真梨子さん、六日市病院の鈴木さん、意味のある出会いのなかで相手に敬意を持っているんだなということが感じられる発表でした。

将来の夢と自分の好きなことを結び付けて事業を考えてきたわけですが、病院を(入院患者やスタッフ?)明るくさせたいという目的に照らして、取り組みの質を高めていくことができそうです。イベント後のアンケートで、病院スタッフが取り組みの感想を「ふつう」と答えていたことに、「くやしい」という気持ちを抱いていました。きっと、「もっと面白い事業をやってやろう!」と思われているのではないのでしょうか。でも、そのためには、「ふつう」と答えた病院スタッフの実情を知る必要があるかもしれません。吉賀町の病院が今どのような状況に置かれているのかをしっかりと把握する必要があるのかもしれません。外から持ってきた「面白い」の尺度が、いつでもどこでも当てはまるとは限らないからです。その場所・その時にもとめられる「面白さ」があり、それが何かを考えることなしに、パッケージ化されたイベントを行っても、それが吉賀町の病院スタッフ・入院患者には合わない可能性もありますね。イベント実施に捉われず、吉賀町の病院の現状を把握することも必要なんだろうと思います。

気持ちをもって取り組んでいることはよくわかりました。これまでに出会った人たちとの関係を大切にしながら、さらに着実な取組に結びつけられるといいですね。改善や発展というのは、何か全く新しいことを始めるだけでなく、今あることを大切に育んでいくなかで実を結ぶものかもしれません。

全体講評 寺崎里水先生（法政大学キャリアデザイン学部教授）

〇〇家の子供という立場から、「大人」になっていく過程にある青年期の皆さんの経験として考えたとき、今回の活動はどういうふうの評価できるかということを考えました。

自分がどのように、今ある社会とかかわったのか、そのなかにどういうふうに関わり場所を作れそうなのか、活動を振り返ってください。活動を通して、今ある社会と自分のかかわり方の方向性がどういうふうに見えてきたでしょうか。

人やモノの良さを発見することが楽しい／得意だ、周囲の人に考えを伝えることが楽しい／得意だ、独創的なものごとを考えついた人のアイデアをサポートして、周りの人と交渉したり準備を手伝ったり、段取りを組んだりするのが楽しい／得意だ、どうしてこうなったのか原因や歴史などを調べたり、情報を整理したりすることが楽しい／得意だなど、自分が社会のなかでどういうふうに関わり場所を作れそうなのか、どういうことができるのか、活動を通して「自分」を発見することが、「大人」になる過程にある高校生のみなさんにとって、とても大切なことだと私は考えています。

「自分」らしさというものは、自分ひとりで、じっと自分だけに目を向けていても発見できなくて、好き嫌いかかわらず、多くの人とかかわって、経験したことのないことをやって、落ちこんだり励まされたりする活動のなかで見つけていくもので、そういう経験を活動として、吉賀高校のアントレプレナーシップ教育はとてもいいものです。

高校生である皆さんの活動は、その失敗が人生に大きなダメージを与えることがないようにしよう、できるだけ成功するように協力しよう、たくさんの方がサポートしてくださっています。学校の外のリアルな社会でもそういうサポートがある場合がありますが、今、社会的な孤立が問題になって、担当大臣を決めたりしているのは、そういうサポートがなくて、誰にも頼れなくて、頼り方もわからなくて、取り返しのつかないダメージを受けてしまう人が大勢いるからです。皆さんは活動を通して、自分が困った状況になったときに、どういうふうに関わり場所を作れそうなのか、学びましたか？うまく自分の考えを伝えられなかったり、計画が行き詰まったりしている仲間がいたとき、どういうふうに関わり場所を作れましたか？

何かイベントをやったり、商品を開発したりすること、あるいはプレゼンテーション技術を磨いて人に何かを伝えようとするなど、すべて、皆さんが「自分」を発見して、頼ったり頼られたりする方法を見つけて、いずれ自力で社会のなかに居場所を発見して、「大人」として巣立っていく力をつけるための方法、手段です。うまくプレゼンできること、何か商品を開発できることだけが、この活動の目的ではありません。繰り返し問いかけてみますが、どういう「自分」を発見できましたか。どういう「大人」に出会い、どういう「大人」になろうと思いましたが、よく考えて、いずれいい「大人」になって、社会のなかに位置づいてほしいと思います。

青年期の皆さんについて、どういう「大人」になってほしいのかを考えて、学校の活動を支援し、見守ってくれている吉賀町の人たちは本当に素晴らしいです。青年が「大人」になる過程を見守り、支援する素敵な「大人」たち、そのうんと端っことにかかわることができて光栄で幸せです。

全体講評 大木由以先生（青山学院大学教育人間科学部教授）

皆さんがどのようなことに取り組んでいるのかを知ることができて、とても充実した時間を過ごすことができました。発表を聞かせていただき、大変ありがとうございました。

吉賀高校のアントレの場合、大切になることは、やっぱり町を知ることもなんだと思います。そのための手段はいろいろあるけれど、地域探究とか、地域と学校との協働ということにおいて大切になるのは、無機質な情報をやみくもに集めるのではなく、苦勞をしたり緊張して卒倒しそうになったり楽しかったりといった感情を伴う情報をいかに集められるかなんだと思います。それを集めるためには、とにかくきちんと誰かに向き合い、その誰かに敬意を示せるようになる必要があるだろうと思います。敬意は最初からあるかもしれませんが、途中で芽生えていくこともあります。生徒の皆さんには、かかわる相手に対して、どこで・どんなことをやっている・誰なのかを知ろうとする態度が求められると思います。相手に敬意を示すためには、自分自身が持っている価値観・ものをみる尺度を捉え直す必

1年アントレ・エピソード

以前の自分は失敗したりしても原因などをあまり考えずそのままにしていました。例えば、バレーの試合などで負けても「次、次」と切り替えるだけでした。しかし、アントレで旧寮を使用してカフェ的な拠点を作ろうとしたため教頭先生におたずねしたところ古すぎて使用できないと言われました。その時はすごく残念でまた初めに戻った感じでした。その後どうすべきかをグループメンバーと話し合いました。その中で色々な案が出てきました。体育館や教室などを使えばいいのではないかなど・・・ですが、なかなか案がまとまらないままでした。しかしすごくいいタイミングで、美楠子先生から2年生と一緒にシエスタを利用したイベントをしないか？というお言葉をいただきました。私達もその方向でイベントなどを考えて進めていました。2月に企画していた初めてのイベントは豆まきでした。小学生の皆さんと一緒にする予定でしたが、コロナウイルスの影響で中止になりました。とても残念でしたが、その後みんなで話し合い「たしかに私達は小学生のことまでしっかり考えていなかった」という意見が出ました。私達は自分たちのイベント最優先で周りが見えていなかったのだとすごく反省しました。私には将来やってみたい職業があります。その職業に就いたときに失敗したらしっかり原因を考えて次に活かしていきたいと思います。

(1年生)

私はこの一年間で協働する力が伸ばせたと思います。この力を伸ばした一番の理由はアントレプレナーシップ教育；通称“アントレ”です。アントレでは「観光・自然・産業」をテーマにして高校でできた友人を含めて四人班で行いました。私は人見知りということもあり、最初はあまりグループの雰囲気に慣れていませんでした。しかし、皆で一つの目標を決め、それに進んでいくうちにどんどん溶け込めるようになりました。また、アントレの活動の際には、パソコンが得意な人はパワーポイントを、料理ができる人は材料から作るなどして、班の一人一人の得意・不得意を理解し、それを活かしながら様々なアクションを起こすことができました。アントレを通して“協働”という言葉をも身をもって実感できたように思います。

(1年生)

私は今回、アントレDチームとして活動しました。その中で“想像力”がこの一年、成長したところだと思っています。今回私たちは、映画の上映をしようと思ったのですが、著作権などの問題により、思うようにいきませんでした。そこは課題点でしたが、どのような人を呼ぶのか・どのような時期にするか・なるべく冬の寒い時期にはしないなど、来てくださる方全員が安全安心で楽しめるように、タイミングなどを見て、しっかりと計画することができたと思います。次には、“忍耐力”が伸びたと思います。それは自分が「～する」と決めたことや、「～まではできないから、せめて～はする」などのことを確実にできるように考え、やりぬいたからです。私はアントレで、“想像力”と“忍耐力”が伸びたと感じました。2年生になってアントレをするときには、この活動から活かしたいと思っているので、来年も継続して活動をしようと思います。次は、行動力を伸ばせるように頑張りたいです。

(1年生)

以前の私は、同じ学校の人、仲の良い人などの意見や考えしか聞いていなくて、考え方や物事のとらえ方が狭くなっていました。ですが、アントレの活動を通して、いつも関わることのない大人の方や地域の方の意見を聞くことが増え、「こういう考え方もあるんだ」と沢山のことを知ることができました。一人一人思っていることや考えることは違うので、意見がぶつかり合って一つにまとまらないこともあって大変だったけれど、グループのみんなと沢山話し合った結果、最後は一つにまとめることができたので良かったなと思います。また、私たちが祭りについて真剣に考えて取り組むほど、大人の方や地域の方もより支えてくれて、アドバイスや意見をくれました。コロナウイルス感染拡大の恐れもあり、イベント開催を実施することはできませんでしたが、白谷神楽の方や八久呂太鼓の方にも協力してもらえたのは嬉しかったです。この活動で学んだことは、大きく分けると三つあります。一つ目は協力することの大切さ、二つ目は沢山話し合うこと、三つ目は第三者の目からも見ることです。将来、小学校の先生になりたいと思っているので、この活動で学んだことはどんな時でも使えるので、忘れないようにしたいと思います。そして2年生になったら、小学生や中学生との関わりを増やし、学生も地域の活動や大人のすることに参加しやすい環境づくりをしていきたいなと思いました。

(1年生)

1年生









2年アントレ・エピソード

私がアントレを通して一番伸ばせたと思う資質能力は、行動力です。今回私は一人で活動していたため、一人で全てをやらなければならなかったのですが、何が足りていないか・何をすべきか分かったらすぐ行動をしていました。自分が行動をしないと誰もやってくれないからです。例えば、私はゲームを作っていたのですが、ゲームにはプログラミングが必要で、プログラミングソフトを持っていないので、作ったことのある人にインタビューしたり、実際にそのソフトを入れたり、いろいろ試したりしました。しかし、一人で全てやるには限度があることも知りました。そこでアントレ発表会で地域の方が「一緒に作ってみたい!」と言っていたので、その方とこれから協力してゲームを作っていこうと思います。

(2年生)

今回、自分の中で一番伸ばせたと思う能力は“表現力”です。以前の私は作文などの文字でしか表現をしたことがありませんでした。なので、今回のアントレの動画作成は初めての動画づくりということでも苦戦しました。具体的には、どうしたらインタビューさせていただいた方の魅力が伝わるのか、どうしたら観てくれる人を飽きさせないかというのを悩みました。しかし、津和野町の映像に詳しい方に撮影の仕方のお話を伺ったり、ドキュメンタリー動画を調べて研究してみたりしたことで、約六分の動画を作ることができました。動画作成をする前はできるか不安なことしかなく、動画編集も遠回りのようなことをして十時間以上もかかりましたが、友達と協力して一つの成功体験を得ることができたので良かったです。また、動画づくりの大変さを知ったので、テレビなどで意識することも少し変わりました。これを経て、これからは面接などで様々な視点を持ち、自己表現していきたいです。

(2年生)

以前の自分は、人前で発表したり話をするのがとても苦手でした。なぜかというと、人前に出るととても緊張してしまうし、恥ずかしくなるからです。ですが、今回のアントレを通して、人前で発表することに慣れ、以前よりもリラックスしてできるようになりました。活動の中で、お年寄りの人が知っている曲を選ぶのがとても大変でした。一回目のライブの時に、「普段はどのような曲を聴くのか」とたずねたところ、「演歌」と答える人が多くて驚きました。僕は演歌を聴く時が全く無いので、それを歌うことは厳しいかなと感じました。そこで朝ドラのOP曲なら知っている方も多いはずと思い、その曲を歌うことにしました。実際、朝ドラの曲なら知っている方も多かったです。今回のアントレでは音楽をテーマとしてやってきて、その音楽で少しでも地域の人を元気にできたと思うので、とてもやって良かったなと思いました。チームの二人で協力して、この活動を成功させることができると嬉しかったです。そして今後も、音楽で人を元気にすることができると良いなと思っています。

(2年生)

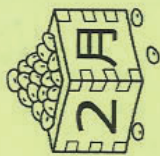
2年生











食育だより

2021. 1. 29
吉賀町学校給食
六日市共同調理場

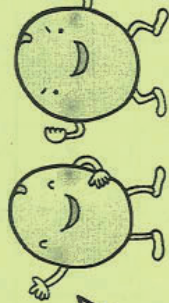
2月は、暦の上では春ですが、まだまだ厳しい寒さが続きます。また、インフルエンザやコロナウイルス感染症も心配な季節です。栄養バランスの良い食事、手洗いやマスクの着用、十分な睡眠を心がけて、寒さを乗り切りましょう。



大豆のひみつ

私の名前は、「大豆」です。体は小さいけれど、「畑の肉」と言われるくらい、たくさん人の栄養があります。

体をつくるものになるたんぱく質、丈夫な骨をつくるカルシウム、貧血を予防する鉄、体の発育に欠かせないビタミンB群、食物繊維もたっぷりです。



吉賀高校とのコラボ給食

みなさんこんにちは！
吉賀高校2年の高橋沙依と中村南緒です。

私たちは、みなさんに他の国の文化を知って、もっと理解してもらって、外国人も日本人もみんなが住みやすい吉賀町を作りたいと思っています。そのためにまずは外国に興味を持ってほしいと思い、外国がフルーツの食べ物を町内の給食で提供するというプロジェクトを始めました。

第1回の2月4日の給食では、中国の四川省の料理が出されます。今日は、今回給食に登場する「ガンドウフ」を紹介します。

ガンドウフ

漢字で書くと「干豆腐」です。中国や台湾でよく食べられている豆腐料理です。日本ではあまりなじみはないですが、湯葉のような見た目です。にんにくやしょうが、トウバンジャンを使った味付けです。

給食は、本場の「干豆腐」が手に入らなかったら、よく似ている湯葉を使ったサラダにします。どんな味がするかな？

今年初めての取り組みとして、吉賀高校とのコラボ給食を実施します。

☆☆ 絵本の世界へ ようこそ ☆☆

1月 「ゆずげ村の小さな旅館」

ゆずげ村でゆずげ旅館という小さな旅館を営むつぼみさん。そこへいろいろな人たちが泊りに来ます。その中の一つ「ウサギのダイコン」は、小学校の教科書に載っています。そこで、だいきんを使っただいきんご飯を作りました。



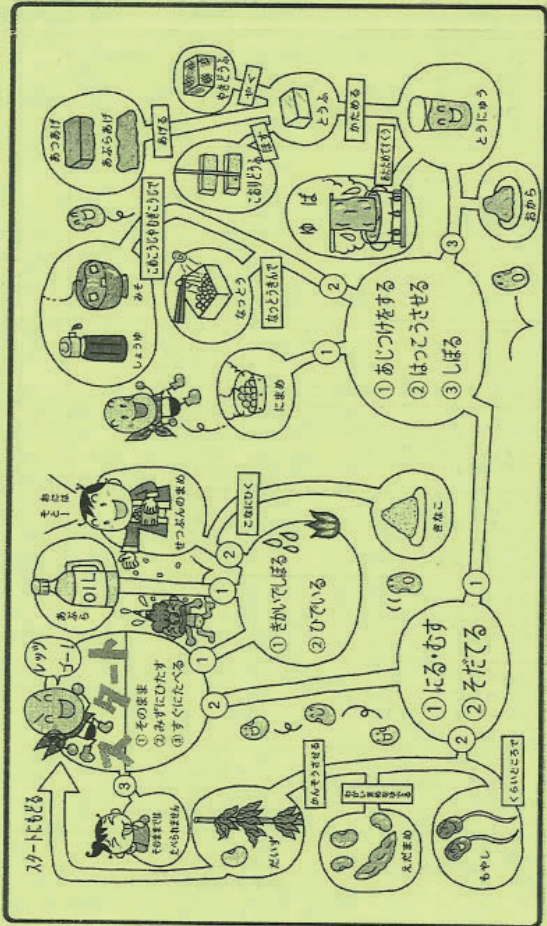
2月 「まめまきバス」

今日は、節分。バス停には大きなマスクをしたバスが待っています。ねずみのみんがのこのこやっさきで「ますくなんかしてどうしたの？」と聞きます。すると、バスは・・・。今年の節分は、124年ぶりに2月2日です。節分の日に節分にちなんだ絵本を家族で読むのもいいですね。



☆☆つぶやき☆☆

1月は「住く」、2月は「逃げる」、3月は「去る」と言われるように、3学期に入っているいろいろな物事があるという間に進む気がします。給食も次の学年へとつながる時期になります。1年間通して、体も心も成長してきたと思いますので、次の学年へと上手にステップアップしていけるといいですね。



世界のサロンから



10月某日、晴天にも恵まれる中、蓼野サロンにお邪魔して参りました。この日は、吉賀高校アントレプレナーシップ教育の一環として、高校生2人にもサロンに来て頂き、緊張する中、歌とギターを生演奏を披露して頂きました。選曲も、昔懐かしい歌から、朝ドラの主題歌、みんなで歌える童謡や、身体を動かして歌える「幸せなら手を叩こう」など、随所に会場全体で楽しめる工夫がこらされており、参加者の皆さんも大喜びの一日となりました。

吉賀高校アントレプレナーシップ教育とは？

吉賀町をフィールドに、ありたい未来を実現するためのプランを自分で考え、自ら行動を起こす探究授業。因みに、アントレプレナーシップとは、「起業家精神」と訳されることが多いです。

【演奏してくれた堀田さん、岡本さんへのインタビュー】

(以下、堀：堀田さん、岡：岡本さん)

《今日の企画を考えたいきさつを教えてください。》



〈↑堀田峻佑さん (Vo.) と岡本陸都さん (Gt.)〉

二人：コロナの中、僕たち二人で何かできることはないかと考えました。今日の演目の中で、中島みゆきさんの『糸』を選びましたが、今日、みなさんとも何らかの糸でつながっていると感じることができました。

《準備で苦労したことを教えてください。》

堀：歌よりも、マイクの調整が大変でした。

岡：皆さんが知っていそうな曲を選ぶのが大変でした。



〈↑若者の演奏に、皆さんウットリ♪〉

《今日、やってみていかがでしたか？》

堀：皆さんが手拍子だったり、一緒に歌ってくれたのが楽しかったです。

岡：最初は緊張しました。最初は皆さんと距離を感じたけど、最後は1つになれた感じがして嬉しかったです。

《将来、吉賀町がどんな町だったら良いと思いますか？》

堀：若い世代から高齢者の方々まで、いつでも触れ合える、関わり合いが持てる吉賀町であって欲しいです。

岡：音楽でも、運動でも、小さなことをきっかけに色々な世代と触れ合える町であって欲しいです。



〈↑みんなで記念撮影〉

《将来の夢を教えてください。》

堀：理学療法士 (リハビリ士) です。

岡：スポーツトレーナーとして、色々な世代の方と関わったら嬉しいです。

来場者の声(グループセッションについて)

1・2年生で内容がレベルアップしていて、1年間の学びが活かされていると感じました。課題発見のためにもっと俯瞰的にこの町を見る機会があればいいと思います。(地域の方)
動画などもあり分かりやすく説明する工夫がなされていたが、せっかくの発表も声が届かずもったいないと感じた。(地域の方)
来場者がみやすいように工夫されている点と発表者が発言できる機会が多くなるよう設定されている点が両立されていてとてもよかった。発表の内容も行動に移している班が多く、それに至らなくても反省がしっかりされていてよかった。(地域の方)
面白い視点を持っているなあと感じられるグループもあり楽しかった。もっと生徒どうして質問しあったりすればよいのに、とも思った。あと、読むことに精一杯のグループもあったが、ぜひ伝える姿勢で発表会に臨んでほしい。(地域の方)
1年生は、この1年でゼロからのスタートとは思えない発表内容になっていると思いました。2年生は、昨年からの成長をすごく感じさせてもらっています。(地域の方)
もっと自信を持って皆の方を見て発表してもらいたいと思いました。パワポ資料の文字が細い字体だと少し離れたら見えにくくなるため、せっかくの内容が届きにくいところもありました。“見てもらう”という視点で資料をつくってもらえるのもっとよくなると思います。(地域の方)
考え方はとても進化・深化しているように思います。実際の行動も頑張っていたようです。ただ、行動をする際の経済的な問題と向き合うものがなかったことが残念でした。(地域の方)
どのプロジェクトの発表を聞こうか、とても迷いました。タイトルをみても魅力的なものが多く、興味があるものを聞きましたが、他のグループのプロジェクトもステージ発表で聞けて、全体でプロジェクトの発表を聞くことができました。(地域の方)
コロナの影響で思う存分活動できずとても残念でしたが、できることを頑張っている姿も見ることができました。(地域の方)
準備が大変だったかと思いますが、1・2年生も全てがスライド発表でよかったです。字は小さかったですけど。マスクをしているということもあると思いますが、声が聞き取りにくかったです。(地域の方)
グループ発表中に放送があって発表の音が消されるので、全体進行放送は必要最小限にするとよい。(地域の方)
高校生の発表を初めて聞いて、非常にレベルが高いという印象であった。(地域の方)
もう少し実体験が多いとよかったのかなと思います。(地域の方)
狭いところで5つのグループが同時に発表するスタイルのため、拡声器が使えず少し聞きづらかった。(地域の方)
意識的に出かけ、考え、実行する姿がよかった。町内のことを幅広く知っている人を見つけられると、より広い視野から考察できるのかな？(地域の方)
コロナの中活動が制限される中、たくさんのフィールドワークを重ねられ、すばらしい発表でした。(地域の方)
よくまとめて発表ができていた。企画と実践、そして情報発信が大切であり、今後も頑張ってください。(地域の方)
自分がしたいことをどうやって発信していくのかのところで、いろいろな人に協力してもらったり、自分たちでつくり上げているのがとても良かったです。それぞれのプロジェクトを聞いて、中学校でもやってほしいものが何個もありました。(中学生)
どのプロジェクトも具体的で、未来を見据えたよいプロジェクトだと思いました。このようなプロジェクトを考えることのできる吉賀高校の生徒に憧れを感じました。吉賀町のために頑張っている生徒を見て、今の私にできること、入学したらしたいことを見つけることができました。(中学生)
それぞれのテーマに向けて、実際に活動を行ったり、動画や紙芝居を使ったりして分かりやすかった。声が聞き取りにくかったりして分かりづらいたところもあったので、対策をした方がもっとよくなると思いました。(中学生)
一人で発表している人もいてすごいと思いました。工夫されていてとても分かりやすかったです。(中学生)
みんなきちんと地域との交流を大切にされていてとても分かりやすかったです。(中学生)
実際に使ったもの、作ったものもあり、すごく良かったです。(中学生)
内容にとても驚いたし、逆に繋げようと思ったことを言っていてすごかったです。でも、少し声が小さかったです。(中学生)
高校生の様々な活動内容が聞けて良かったです。自分が思ったことを言葉にし、伝えるすばらしさがありました。自分から物事をする人がたくさんいて、言葉にすることのできることもあるのだと学ぶことができました。そして、伝わりやすいよう、それぞれが工夫していて分かりやすかったです。(中学生)

内容はどのグループも具体的でとても興味深い話でしたが、声が小さいグループもあったので少し聞き取りにくかったです。(中学生)
自分の興味があることや好きなことを深く調べたりすることはとてもよかったですし、楽しそうだった。私は発表することが苦手なので、吉高生のように上手く発表できるようにになりたいです。(中学生)
とても興味深く発表を聞かせていただきました。少し厳しいことを書きますが、発表者の質問を受け止める力を養うと一層よい空間になると感じました。ただでさえ質問しづらい雰囲気の中で、一般参加者が質問をしたとしても、受け止める側が素っ気ない態度だと質問する気がなくなってしまうのでお互いにとってよくないと感じました。学び合える時間にできるように皆で意識していきたいものですね。(他校先生)
ポスターセッションのような形式により、一人一人が活躍(アウトプット)できる場が設けられていて、運営・準備など大変だと思いますが、素晴らしいと思いました。また、フィードバック、振り返りをきちんとできるようにしており、とても参考になりました。(他校先生)
「町に人を呼ぶために」「定住してもらうには？」という質問はよく中学生にも投げかけますが、よくあがる意見の代表は「SNS でアピール」と「商業施設をつくる」です。今日の発表では、これ以外のプロジェクトもたくさんあり、防災や紙芝居、体力測定など着眼点が面白いと思いました。(他校先生)
うまくいってもいなくても、がんばって取り組んだことを発表する姿がいいですね。(他校先生)
全体的にダイナミックなプロジェクトが多く、「吉高高校だからできる！」というのが一番の印象です。これも毎年の積み重ねがあり、地域や学校等の受け入れ、協力があってのことだと思います。先輩の残してくれた吉高の宝ですね。また発表会では生徒さんが原稿を読むという雰囲気ではなく、自分の言葉で語るというところがよかったです。それから、成果として人との関わりから学びがあったというプロジェクトがいくつかありました。いずれも社会に出て必要な力、すてきな学びをされました。 一方、コロナ禍でマスク着用の今、マスクを通して伝えるための声の大きさや話す速さの工夫も取り入れていくとよいと思います。言葉では伝えにくい分、スライドの工夫も意識するとよいと思います。(他校先生)
各グループが1年あるいは2年かけて学んだプロジェクトの発表はとても説得力と迫力があつた。私自身、とても刺激を受けたので、現在勤務している学校で生かしていきたい。(他校先生)
生徒の取り組み、発表のレベル、発表の環境、町の方々や大学とのコラボなど、年々めざましいグレードアップを遂げている。以前は思いつき程度のアイデアが多かったが、今年度はずいぶん思考を掘り下げた取り組みがあつた。この流れが続けば、本校生徒の思考力、表現力、協働力等、年々進化していくと思う。(本校教員)
たくさんの生徒の発表を聞きたかつたがグループセッションの形にしたことにより、発表数が限られるので集中でき、講評や評価がしやすかつた。大学の先生ともしっかり評価のポイントについて話をしたり、1プロジェクトずつしっかり講評できた。(本校教員)
どのグループも緊張感が漂っており、生徒たちの気合い、真剣さを感じました。(本校教員)
地域の皆さんも積極的に質問されている場面が見られ、ご協力いただいていることを実感しました。ただ、発表が3分～3分30秒程度で終了しているプロジェクトチームもあり、少なくとも4分台で終わるような事前指導が必要かと思いました。(本校教員)
スライド資料が掲示してあって、それを見てから気になった発表を聞けるのがよかつた。来場者も多く、生徒によってはかなり近づかないと声が聞こえにくい生徒もいた。隣のグループが映像・音声を流すと特に。(本校教員)
1年生も2年生もそれぞれの段階(ステップ)に応じた発表(内容)になっており、忙しい中、よく進めていたと思いました。内容の深い取り組みをしていたチーム(個人)は、発表時間や質問タイムが足らず、また、しっかりと深めることができなかったチームは沈黙が見られ、発表の組み合わせも大事だと感じました。(本校教員)
どのチームもスライドショーをうまく使い、分かりやすいとは思いましたが、パフォーマンス性・独創性が出せるとよいと思いました。(本校教員)
もっと活発な意見交換ができるよかつたと思います。地域の方々(関わってくれた方)も含めて感想や意見を聞きたかつた。(本校教員)
発表準備(パワーポイント、話す内容の整理)は A(よかつた)～B(まあまあよかつた)、話し方(話す迫力は昨年度の方がよかつた)、探究の深み(自分たちの～したいこととどまっていた、問題・課題にぶちあたる前に終わっている)、町の人への思いに触れているか(町の人との間の議論が少ない。町の人への思いも踏まえてのアンブレカなどと思う。)については、B(まあまあよかつた)～C(あまりよかつた)。)(本校教員)
グループセッションの質疑応答の時間が短すぎて、コメンテーターからの質問だけで終わっていました。せっかくの発表会なので、10分ぐらい時間が必要。質問が多いと、次への改善点も見つけやすい。(本校教員)

来場者の声(ステージ発表について)

ステージ発表されたプロジェクトチームは、芯が一本通っているのでわかりやすかった。(地域の方)
選ばれたグループのみだけだったけどしっかり声を通り見やすくわかりやすかった。パワーポイントがスムーズにできるとなおよかった。(地域の方)
選ばれたのだから、もっと自信を持って発表して！(地域の方)
選ばれた自信と緊張が伝わりよかったです。(地域の方)
発表も丁寧でよかった。検証と今度の方針が生まれるようになるとういかなと思います。(地域の方)
若い高校生が吉賀町で活動していることはとてもよい。(地域の方)
いろいろな事に興味を持って活動しているんだなあと改めて感じました。(地域の方)
自分たちの思いが伝わってきて感動した。誰かのために何かをしてあげたいという思いに、知恵や発想力を与えられるのだと思う。(地域の方)
さすが代表に選ばれたチーム、気づきや成果など、次へのステップへつながる発表も多かったです。(地域の方)
グループセッションでは5プロジェクトしか聞けなかったの、ステージ発表はとてもいい企画だと思います。(地域の方)
何年か参加させていただいていますが、年々発表が進化していると思います。将来の吉賀町を担う人材になってほしいです。(地域の方)
内容的にはよかったが、声が聞き取りにくかったりしたので改善が欲しい。(地域の方)
イベントを聞く時の工夫などから、私がポスターセッションをしたり、イベントを開いたりする時にとても役に立つなと思いました。(中学生)
自分たちで吉賀町のために何ができるのかを考え、活動し、実際に発表することでとても力がつくと思いました。(中学生)
私は紙芝居のプロジェクトがとてもよかったです。なかなか外で遊ぶことのできない子どもたちのために紙芝居をつくることで吉賀町の伝統的な文化をよりみんなに伝えることができると思いました。(中学生)
グループセッションで聞いたプロジェクト発表でも、ステージ発表では変えて説明していたので、より深く考えることができました。(中学生)
改善点もしっかり分かっていて、いいところだけでなく、悪かったところも取り上げていてよいと思いました。(中学生)
全プロジェクトチームが舞台上で堂々と発表していて感銘を受けました。自分も負けていけないという気持ちになりました。(他校先生)
一人一人が生き生きと自信を持って発表していた。(他校先生)
みなさん堂々と発表されてすばしかったです。運悪く見られなかったプロジェクトを聞くこともできてよかったです。残念なのはフロアで発表を聞く生徒さんの寝ている姿が多かったこと、それぞれの事情はあるかもしれませんが、自分たちの発表会に来てくださった方々の前で、どんなふるまいをしたらよいのかも大切なことです。社会で通用するマナーも身につけてほしいと思います。(他校先生)
各グループから選ばれただけあって充実した内容であった。自分の興味・関心のある事柄について探究することの大切さや深まりを見ることができてよかった。(他校先生)
協力、思いの強さ、他との連携などがよりよく伝わった。(他校先生)
生徒たちの立派な姿、すばらしいプレゼンにほれほれました。我々の世代にはない「資質・能力」が、今の吉高生には確かに育っていることを実感しました。(本校教員)
生徒たちがとても生き生きとしっかり発表していた。選ばれて代表になったという気持ちも強かったのかもしれない。大きなステージ、地域のみなさんの前で発表し、自信となったのでは。(本校教員)
大勢を前にしても堂々と発表していることがまず素晴らしいと感じました。(本校教員)
少しでも全体で共有できるような場があり、聞き手も参考になったのではと思います。(本校教員)
グループセッションの時に全ての発表を聞くことができないので、大学の先生イチオシの発表を最後に聞いてよかった。(本校教員)
回数を重ねるごとに上手になる生徒の姿は頼もしかったです。グループセッションの時からステージ発表で新たに内容を加えたり、発表方法を変えたりしているところもあり、感動しました。(本校教員)
機材はなかなかうまくいかないこともあるので、良い物を購入する必要があるかと思います。ステージ発表をしたのであれば、その中の優秀賞があってもよかったと思いました。(本校教員)
大学の先生からの講評が1つのプロジェクトごとであればよかったと思います。どこがよく、どこが不十分なのかを言ってもらえると、他のグループも勉強になります。これに対しても、全体から質疑応答の時間があればよいと感じました。(本校教員)

来場者の声(吉賀高校アントレプレナーシップ教育について)

浦崎先生の講評にもありましたが、せっかくの探究もここで終わらせず、実際の活動につないてもらえるようになるといいですね。何に取り組むかという時の参考として、大人はこんなことに高校生の力を欲しがっている、一緒にやりたいと思っている、ということ把握すれば実行に移しやすいのかも。(地域の方)
小さい頃から知っている生徒の成長を見ることができてよかった。(地域の方)
ぜひマネタイズ(クラウドファンディング)を体験するようしてもらいたい。リアルな体験こそ重要です。(地域の方)
アントレを経験することで、自分たちで考え、構成し、まとめ、発表する力がつくと思った。実際に、子どもの大学受験では、アントレについて、自信を持ってアピールできていたように思う。これからの将来に必ず役立つだろうなあと感じた。(地域の方)
今は他県の生徒が在籍しており、新しい視点で吉賀町をみつめることができ、様々な発見があると思う。(地域の方)
初めて参加しました。勉強になりました。この教育活動は将来役に立つことまちがいないですね。楽しみです。(地域の方)
限られた時間の中での活動だと思いますが、さらに中広く、奥深い学びをすすめていってほしいと思います。(地域の方)
1年間でやり遂げることが難しい課題や似たような課題もでてくると思うので、次の世代へ引き継ぐプロジェクトももっとあってよいと思います。(地域の方)
地域の方にも「アントレプレナーシップ教育」が浸透しているとはいえ、まだまだ？？な方も多いです。直接的に関わる方を増やしたり、さらなる情報発信をしたりすることが大切かと思います。(地域の方)
PBLは小中でも何らかの形で取り組んでいるので、一堂に会することがあるといいと思います。(お互いに刺激的！！)(地域の方)
今後さらに続けていってほしいと思います。「継続は力なり」。(地域の方)
吉賀高校のアントレプレナーシップ教育成果発表会を聞いて、今後の町づくりの参考になった。(地域の方)
地域や行政を動かすような企画や情報発信に引き続き努めて欲しい。(地域の方)
求めすぎだと思いますが、ただ地域のひと何かやるだけではなく、定期的にフィードバックをもらえる人とのつながりがあると、よりよい教育になると感じています。「アントレ」はとても素晴らしいものだという前提での意見です。(他校先生)
町民へのよい刺激になっています。ぜひ継続してください。(他校先生)
生徒たちが考え、作成したり、実行した活動も多いと思うが、それがどのような形で地域に残ったのか、引き継がれているものがあれば、アントレ授業の最初に紹介してもらえると生徒にも初めて取り組む教員にも参考になります。(本校教員)
自分たちで考え、計画、実行、ふりかえり、実行、発表により、表現したり、人前で発表することを通じ、生徒たちが大きく成長しました。自分の新たな面を発見した生徒もいました。「自分の力でやった」と達成感や自信をつけた生徒もいました。探究活動からの学びが、今後生きていくと思います。(本校教員)
自分たちのプロジェクトに取り組みながら、悩んだり苦労したり…、いろいろ経験し、発表のためのまとめをし、発表する…。高校時代に自分がこのような経験をしていたら、人生が変わっていたかも？！と思う。生徒たちの将来が楽しみです。(本校教員)
多くの地域の方々と連携されており、今後も必須な活動だと改めて感じました。(本校教員)
アントレ授業以外の通常授業で、地域フィールドワークを実施する場合は公欠扱いにすることにより、今までより活動できる機会が増えて良いのではと思いました。(本校教員)
教職員全員が関わり、教科横断が具体化するシステムを。アントレの在り方、やり方、行く末等、そろそろ総括の上、次のステージへ。1～3年を見通した体系的な授業を。皆で話し合しましょう。(本校教員)
「地域課題」のみをお題にしているは、いずれ行き詰まると思います。今年度の2年生が、自己を起点に探究活動したのはとてもよかったです。子ども達一人ひとりの内面に、自分自身の学びの火が点る探究活動になり、その炎が他教科や部活、生活にも広がっていくといいですね。(本校教員)
吉賀高校のよさはどれだけ地域とつながっているかだと思います。それが前面に出ればもっとよいと思います。生徒のストーリーをもっと聞きたかったように思います。思ったこと、感じたこと、これがあったから育ったこと、失敗など。(本校教員)

2021/2/12 アントレプレナーシップ教育成果発表会









紙芝居制作や音楽演奏 吉賀高生 地域活動発表会



萬歳楽をテーマにした紙芝居の制作を報告する生徒たち

吉賀高校(吉賀町七日市)の生徒が取り組んだ地域活動の発表会が12日、吉賀町六日市の町民六日市体育館であった。山盛りのご飯を食べ、収穫を祝う同町の伝統行事「萬歳楽」の紙芝居作りなど、多彩な企画の内容と成果を報告した。

萬歳楽の紙芝居を作った2年生の河村日南さん(17)ら生徒2人は、コロナ禍で外へ出る機会が少なくなった子どもたちに楽しんでもらいたいとの思いを込めたと振り返った。河村さんは「絵で分かりやすく表現するのが難しかった」と制作時の苦労を明かした上で、

「子どもたちに喜んでもらえてうれしかった」と話した。

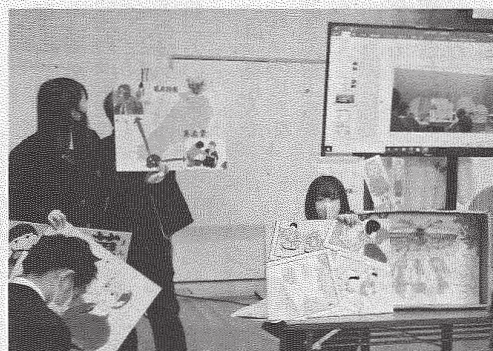
自然を生かしたアスレチック場の整備や、音楽演奏を通して地元の高齢者を元気にする取り組みなどに関する発表もあった。

地域住民との交流を通して生徒の自主性と協調性を育成することを目的に、吉賀高と青山学院、法政、大正の3大学が共同で2014年から行っている。1、2年生計70人が、大学生と協力して活動した。

(石倉俊直)

(山陰中央新報:令和3年2月13日付)

「萬歳楽」紙芝居 子ども笑顔に



伝統行事「萬歳楽」の紙芝居を披露する生徒たち(吉賀町で)

吉賀高生が地域活動発表

地域の課題解決を考えることを通じ、起業家精神を醸う県立吉賀高(吉賀町)の「アントレプレナーシップ教育」の成果発表会が12日、吉賀町民六日市体育館で開かれ、生徒たちが学習の成果を披露した。

地域の課題を掘り起こし、住民とともに解決策を探る過程を通じ、人間力を養おうと、同高が7年前から実施。この日は1、2年生計71人、25チームがそれぞれの取り組みについて発表した。

コロナ禍の影響を受けた現状に注目した取り組みが相次ぎ、2年の男子生徒2人は、人とのふれあいが少なくなった老人ホームで、得意のギターを演奏する音楽会を開催。2年の女子生徒2人は、思うように外で

遊べない子どもたちを笑顔にしようと、吉賀町柿木村の伝統行事「萬歳楽」の紙芝居を製作し、小学校などで披露した。

子どもたちに地域文化を伝える紙芝居を製作した河村日南さん(17)は「町の伝統を知ることにもつながった。活動を増やして町の良さに触れるきっかけになりたい」と話した。

(読売新聞:令和3年2月16日付)

地域愛 甘く挟んで

全国高校生SBP交流フェア 吉賀高生が大会特別賞



県立吉賀高校（吉賀町七日市）の3年生5人が、地域課題をビジネス手法で解決しようという取り組みを発表する「第5回全国高校生SBP（ソーシヤル・ビジネス・プロジェクト）交流フェア」で大会特別賞を受賞した。町内の障害者福祉施設と共同で地元産の果物を使ったジャムを挟んだパンを開発しており、地域への貢献度が高いと評価された。

全国高校生SBP交流フェアにウェブで参加した吉賀高校地域クラブの生徒たち＝吉賀町七日市、いずれも同校提供

障害者福祉施設とジャムパン開発



吉賀町内の障害者福祉施設と共同開発したジャムパン

フェアは、三重県の一般社団法人が主催し、8月2日、ウェブで予選があった。全国から吉賀高校を含む22団体が出場し、同校は上位6団体に入り、2度目の出場で初めて最終選考に進出。同じくウェブで行われた23日の最終選考で特別賞を獲得した。

吉賀高校では、キャリア教育の一環として地域課題の解決策を考える学習に取り組む。昨年6月、パン作りをしている障害者福祉施設「よしかの里」（同町六日市）から「新しい商品と一緒に開発したい」と依頼があり、全校生徒が加入する同校地域クラブ

の中から名乗りをあげた女子生徒5人が、施設を見学するなどして開発に取り組んだ。話し合いで施設側は「利用者の工賃がとても低い」「地域の障害者への理解が乏しい」などの課題を挙げた上で、「吉賀町らしいもの」「障害者が一緒に作れるもの」を共同開発してほしいと要望したという。

生徒たちは、もともと施設で作っていたコッペパンを使って新しく商品化することを検討。同町柿木村でとれた無農薬・有機栽培のイチゴやブルーベリー、ユズなどのジャムをパンに挟もうというアイデアが浮かんだ。新型コロナウイルスの影響で広島市のマツタスタジアムなどで販売する計画が中止になったが、生徒たちは発表に向けて準備を進めてきた。10月には同施設で商品を販売する予定だ。

審査では、「地域への思いを持って地域と協働し地域に貢献している」ことなどが評価され、6団体すべてに与えられる大会特別賞のうち「南伊勢町長賞」を受けた。

地域クラブのリーダー千葉優希さん（18）は「一人と人をつなごうと考えた。吉賀町が障害者が活躍できる町になってほしい」と話した。

（水田道雄）

（朝日新聞：令和2年9月2日付）

地元で起きた大火事きっかけ

防災士資格 高2で取得

災害時の避難や救助などについての知識と技能を持つ民間資格「防災士」を、島根県吉賀町七日市の県立吉賀高校2年生の藤田晶斗さん(16)が取得した。地元で起きた大規模火災を機に、一念発起して合格を果たし、「将来は吉賀町で住民の防災意識向上に役立つ仕事に携わり、誰もが暮らしやすい安全安心な町をつくりたい」と抱負を語る。(石倉俊直)

吉賀高・藤田さん



16歳で防災士の資格を取得した吉賀高校2年の藤田晶斗さん。島根県吉賀町七日市、吉賀高校



藤田さんが防災士の資格取得を目指すきっかけになった、22棟2300平方メートルを焼いた火災。2019年5月12日、島根県吉賀町七日市

浜田市出身の藤田さんは広島、埼玉で過ごした後、「人とのつながりが持てる田舎暮らしが合っている」と2019年4月、吉賀高校に入学した。防災士を目指すきっかけになったのが、入学間もない同年5月12日、七日市地区で発生した民家火災。22棟が全半焼し、約2300平方メートルを消失する大きな被害を目の当たりにした。「寮のドアを開けると、目の前ですさまじい炎が上がり、熱風が押し寄せてきた。今まであった建物があっという間になくなった衝撃は、今も忘れられない」防災に対する意識が高まり、資格取得に向けて本腰が入った。資格取得に必要な心肺蘇生やAED操作の救命

安全安心な町へ知識還元

講習、筆記試験を経て20年9月に資格を取得した。日本防災士機構によると、21年1月31日時点の防災士登録者は全国で20万人、県内は1035人。取得時の年齢が18歳以下なのは2%の約4千人にとどまり、県内でも2人だという。すでに同町内で開かれた防災イベントで、段ボールベッドや防災テントの組み立てを指導し、災害発生時の安全な避難方法を住民に説明するなど、活動の輪を広げる。同校の渡部敏郎校長(57)は「得た資格を地域貢献に生かそうと行動する生徒が生まれたのは、学校としても非常にうれしい」と笑顔で話す。防災や防犯に関する知識向上に向け勉強に励む藤田さんは「高齢者が多い吉賀地区で、自分の身は自分で守る意志を住民全員が身に付ける活動を広げたい」と意気込んでいる。

「自分の事と考える」

東日本大震災から10年を迎えるのを機に、吉賀高校（吉賀町七日市）の生徒らが7日、津波で750人以上が犠牲になった宮城県名取市関上地区で震災の語り部活動をする女性とオンラインで交流した。「震災を自分の事として考えてほしい」と吉賀町の高校教諭らが企画した。交流の後、生徒たちは鎮魂と復興祈願のために町内でともす竹灯籠を作した。

【菅原健二】

語り部・丹野さん 吉賀高生と交流

本
日
東大
震災
10年

町内の地域交流スペース「シエタ」での交流イベントには約20人が参加。主催したのは

は同校の生徒や教諭、町教委職員らでつくる任意団体「ほしまりの会」（約10人）で、同校教諭の中村美穂子さんも「震災の事実を子どもたちにどう伝えたいか」と思案し、発案した。この日、体験談を語ったのは、市立関上中

の1年生だった長男の公太さん（当時13歳）を亡くした丹野裕子さん（52）。地震の激しい揺れに襲われた時、公太さんが「震災の事実を子どもたちにどう伝えたいか」と思案し、発案した。この日、体験談を語ったのは、市立関上中

「大丈夫という根拠

のない言葉のせいで息子の命を奪った。私は阪神大震災も中越地震も自分の事として考えたことがなかった。津波のことも全く分かっていなかった。自分が息子を失ってから気がいたと丹野さん。「皆さんは、自分自身や大切な人を守る方法をどうするか先で考えてください」と訴えた。

震災時は小学1年生だった男子生徒は丹野さんの話を聞いて「あの

日、家に帰るとテレビは津波の映像ばかりで好きな番組が見られず「なんだ」と思った」と振り返り、「家がありご飯を食べられるのは幸せなのだと感じた。また女子生徒は「自分の大切なものがいなくなってもおかしくないのだと気付いた」と話した。

その後、高校生たちは町内で取れた竹を切り、平和の象徴のハトなどを描いてドリルで穴を開け、竹灯籠を作った。同町七日市の七日市バス停前で10、11両の午後6時から約1時間点灯する。



東日本大震災で大きな被害があった宮城県名取市関上の語り部の体験談を真剣な表情で聞く吉賀高校の生徒たち



鎮魂と復興の願いを込めて竹灯籠を作る吉賀高校の生徒たち（いずれも吉賀町で）

若者の可能性を狭めないで

吉賀高校3年

小倉 美羽

現在、日本では少子高齢化が進んでおり、深刻な問題となっている。日本はすでに超高齢社会に



突入しており、2005年には合計特殊出生率が過去最低を記録するなど、現状は私たちが想像していたことより、はるかに深刻

2021年に望むこと

は、今後ますます税金の負担が大きくなると考えられる。支える側の生活が困窮しては元も子もないのではないかと。未来を担う若者の一人として、自分にできることは精いっぱい取り組みたいと考えている。しかし、現状では若者の可能性や選択肢を狭めているように思う。だからこそ、この問題を改善する第一歩となる年であってほしい。

勇敢な医療従事者の仲間へ

吉賀高校3年

友重有加里

昨年、新型コロナウイルスの感染は今でも増えている。そんな中、新型コロナウイルスに立ち向かい、患者さんのために、休みなく働く医療従事者は、勇敢だと思つた。

私は将来看護師になりたいと考えている。今は二ニュースで見るとしかできないが、頑張っている医療従事者と共に、患者さんのために一生懸命働けるように、苦しくても日々努力していきたい。

今年、新型コロナウイルスの感染が縮小し、少しでも以前の生活に戻ってほしいと思つている。なぜなら、遠くに住んでいる祖父母や友達と会つて話をしたいからだ。また、新型コロナウイルスに関する誹謗中傷や差別的な言動が多かつたので、少しでもなくなつてほしいと考える。これからのより良い社会のために、今自分に何ができるかを考え、行動をし、周囲の人たちと支え合いながら生活していきたい。

(令和3年1月18日付)

子育てしやすい環境を整えて

吉賀高校3年

本東地小鳥羽

日本は今、深刻な少子高齢化問題に直面しています。世界を見てみると先進国では日本同様に少



子高齢化が進んでいます。その中でも日本の少子高齢化は群を抜いています。

2021年に望むこと

総務省の推計によれば、65歳以上の高齢者人口は2020年9月で約3600万人で、総人口に占める割合は28.7%となりました。この数字は過去最高で今後も高齢化率は上昇を続けるといわれています。そして、現在の日本は人口を維持するために必要な出生率の水準を下回ると思っています。また、収入を増やして家計が安定することで、出産や子育てにつながっていくと思っています。

多難なこれからの粘り強く

吉賀高校3年

中村 悠馬

今、世界や日本中で流行している新型コロナウイルスの影響で、どれほどの若者たちが職を失

り、急速に少子化が進んでいます。こうした問題の解決策として私が考えることは、男性の子育てへの参加や雇用・所得の安定化です。子どもを育てやすい環境をつくるためには、男性も子育てに協力することで負担が軽減すると思いましたが、また、収入を増やして家計が安定することで、出産や子育てにつながっていくと思っています。

業後に就職するのも今の世の中の状況を考えると、とても難しくなると思っています。今自分に大切なことは自立していくことだと思います。このコロナ禍の状況にのみ込まれず、自分の力でうまくやっていかなければならないと思つています。粘り強く頑張っていくことのできる気持ちを持ち続けたいです。



(令和3年1月19日付)

好奇心持ち明るい未来を描く

吉賀高校3年

榎 武士

2020年は新型コロナウイルスのために生活様式が一変した一年でした。ソーシャルディスタンスや活動自粛など、さまざまなことが制限、禁止されてきました。しかし、その中でもリモート会議やキャッシュレス決済の増加など前進したものもありました。結局昨年は「転換」の年だったと思います。そして、今年には格差の年だと思っています。今年の経験を生かし、人々は意識を変えて新しい価値観が生まれると思います。

す。時代の転換により、ITの普及が進み、時代の波に乗れない者は取り残されていくでしょう。そのためにも常にアンテナを張っておくべきです。

看護師になって医療に貢献

吉賀高校3年

中村 舞夏

春から、私は地元を離れ、看護学生として新しい生活がスタートします。家族や友達と離れ、慣れない生活になると思いますが、そんな生活の

中でもたくさん学ばせてくれることと、私の今年の目標です。

2021年に望むこと

看護学校に入学するの、看護士はもともと多く学ぶと思いますが、それ以外にも、人と人のコミュニケーションの取り方や、10人いれば10人の考え方があって、どのよ

うな価値観があるのかというところも学んでいきたいです。また、私生活でも自分で家事をすることや、車を運転する機会が増えるので、その面でも新たな学びがあると思います。

2020年は新型コロナウイルスが流行して、私たちの生活が大きく変わりました。上半期の緊急事態宣言中は社会活動が停止され、沈黙の時となりました。



ナウイルスが大流行し、看護師を目指す人の一人として印象的な年でした。この気持ちを忘れずに看護師の資格を取り、少しでも医療の世界に貢献したいと思っています。

(令和3年1月20日付)

国民を尊重した政治を望む

吉賀高校2年

岡本ひなた

私が2021年に望むことは国民を尊重した政治を行ってくれることです。

卒業間近の3年生に出された休校措置は、友人たちと過ごす時間を失うという宣告でした。ワクチンすらないのに始まったGo To トラベルとともに、感染者が増加し再度危機にさらされました。

楽しい思い出増やせる年に

吉賀高校3年

高杉奈々子

そこで私が感じたことは、日本政府の執った政治は国民のことを考えたものではなく、国民をよりに混乱させたのではないかと思います。

一つ一つの行事が行われる一年になってほしいというのが私の望みです。

2021年に望むこと

私は自分や周囲の人が感染するのを避けるために、基本的に自宅にいます。それなのに政府がこんなことをしていてはいけないと思います。2021年はもっと安全な生活ができるようにしてほしいです。

青春を奪い取られませんでした。一つ一つの行事がどれだけ私たちの思い出に なっていたらだろうと少し思っています。



に行ったりすることが簡単にできない一年でした。そして、花火大会や秋祭りで見える神楽はなくなり、学園祭は実施されませんが、先生と生徒のみで、例年より盛り上がりは少なかつたように感じました。

出がたくさん増えるような世の中に戻ってほしいです。友達と夢見て話していた場所へ旅行したいです。後輩にはもっと充実した楽しい高校生活、青春を過ごせる一年となることを願っています。

(令和3年1月21日付)

コロナで幸せの尊さを知る

吉賀高校1年

岡本 萌泉

私はとても幸せ者です。優しい家族がいて、支えてくれる友達がいて、助けてくれる大人が周りに大勢いて、毎日必ず幸せを感じることができきます。

しかし、今年は新型コロナウイルスの流行により、私の幸せが少しずつ減っていききました。世界中が大変な状況になり、誰もが体験したことのない事態ばかりでした。私は、コロナウイルス

何事も恐れず積極的に挑戦

吉賀高校1年

川口 加偉

私の今年の目標は、何事にも積極的に取り組むことです。

2021年に望むこと

(完)

憧をしましたが、コロナのおかげで、自分は恵まれていてという大切なことが分かりました。きつと、このような体験をしたのは私だけではない、世界中の人もだと思えます。最悪の出来事から気付けた最高の事実を忘れずに、2021年は今よりもっと多くのことに感謝していきたいです。

毎日当たり前のようによつてくれていた洗濯などを誰もしてくれない。周りには洗濯しなさいとか言ってくれる人も誰もいないから、自分で全てやらなければならぬ。

高校2年生になったら、勉強に積極的に取り組んでいきたいと思つている。また、地域の活動に参加しようと思つている。今の私は人に勧められなければ何もできない。そんな自分を変えられる一年にしたい。

何事にも怖がらず積極的に挑戦していきたい。今までの自分とは変わった姿を家族に見せたい。

(令和3年1月22日付)

学校トイレスッキリと

吉賀高・高橋さん 改革取り組み

県立吉賀高(吉賀町)の2年高橋那央さん(16)が、校内の「トイレ改革」に取り組んでいる。冷たいイメージの学校のトイレを、きれいで快適な空間に変えようと奮闘しており、「トイレはきれいである」ことが当たり前の場所にしていきたい」と意気込みでいる。



高橋那央さん(16)が、校内の「トイレ改革」に取り組んでいる。

愛知県あま市出身の高橋さんは、「しまお留学」で起業家精神を養う「アントレプレナーシップ教育」を推進する吉賀高へ。ふざけずを離れて過剰な寮生活では、食事以外はずべて自己管理が求められ、身の回りの掃除や洗濯を当たり前に行う必要があると感じてきた。

そんな環境下で、同教育の課題を細り下げる中、目を付けたのがトイレだった。中学生の頃までは、自宅のトイレ掃除を行った後に50円のお小遣いをもらっていた高橋さん。母はとくに掃除には厳しく、きれいな状態を保つ大変さが身にしみて感じられた。

どうにか掃除く、きれいには異なれない学校のトイレ。そんな環境に二石を投じよう。昨年10月から今年1月にかけ、問題を洗い出すために五つの調査がある女子トイレの掃除

掃除マニュアルや検定「きれい、当たり前」

を施行した。

母が気づいたのは、丁寧に掃除するだけで8時間以上かかることや、表面上はきれいに見えるも便座の裏側には汚れがこびりついていることなど。そこで、毎日行う作業と週2、3度行う作業を分類した掃除マニュアルを作成した。

また、世間や日本のトイレ事情を伝える認知もポスターにして掲示。普段、何げなく使っているトイレ環境に関心を持ってもらうのが狙いで、「小さな積み重ねから、無意識に「トイレはきれいな空間」だと感じてもらうこと」で、恒久的な清潔な空間を保てるようにしたいと話した。

今後、トイレの歴史や機能、掃除の仕方などの知識を養う「トイレ検定」の実施を目指すほか、きれいに保たれた学校同様のトイレ空間の提案を、大手トイレメーカーに行つてを目標としている。

寮生活で、習慣づけの大切さを学んだという高橋さん。「きれいな環境であることが当然であつて習慣づけることができなければ、トイレの環境も保たれていくはず」と話した。

(読売新聞:令和3年3月9日付)



吉賀町とともに Since 2013

吉高地域クラブ

学校概要

- 1学年1クラス全校生徒108人の小さな学校
- アントレプレナーシップ(起業家精神に学ぶ)教育が活発
- 地域での体験学習ができる
- 全校生徒が地域クラブ員



活動体制

地域クラブ委員・主要メンバーが活動を提案 → 活動メンバー・教職員が校内・校外との交渉 → エントリーメンバーで活動

→ 活動報告・まとめ

総部員数: 全校生徒

地域クラブとして、地域のボランティアに参加したり、吉高ライスバーガーを販売しています。また、吉高ではアントレプレナーシップ教育(総合的な探究の時間)が活発で、地域課題を発見し、解決する学習を、地域クラブの活動と連動する形で行っています。

活動方針

- ライスバーガー販売をととして吉賀町の魅力発信
- 地域の方々と一緒に地域の課題解決に向けた活動
- 地域活性化に貢献

【主な活動】

- ボランティア活動への参加
- 吉高ライスバーガーの取り組み
- 森里川海連環学
- アントレプレナーシップ教育との連動

令和元年度の活動内容 (※令和2年度はコロナ禍の影響で活動がほとんど中止)

■ 年間活動内容

- よしか・夢・花マラソンボランティア(4月)
- 森里海連環学体験学習 (4月、8月、11月)
- 田んぼの生き物調査ボランティア(6月)
- 高津川川下り調査活動(8月)
- よしか町ふるさと夏祭りボランティア(8月)
- 学園祭展示(9月)
- 邑南・吉賀里山バスツアーボランティア(10月)
- ハゼ干し講習会&収穫祭参加(10月)
- きん祭みん祭農業文化祭参加(11月)
- キヌヤよしか町フェア参加(1月、2月)
- しまね探究フェスタ発表(2月)



活動記録



過去の活動

- 地域のお祭りやマラソン、小中学校の運動会などの行事でのボランティア活動
- 吉高ライスバーガーの開発・販売



部員の想い

きらめけ我らの吉賀魂！広げよう私たちの願い！

- 発表を通して、経験を積める。
- 話し合いの中で、自分たちの意見をしっかりと伝えることができるようになる。
- 私達が住む吉賀町のことをよりよく知ることができる。
- 他校の生徒たちとの交流を通して、自分たちの活動を見直すことができる。
- このクラブ活動が今後も継続して行われる。

部員の変化

- 発表する姿勢、コミュニケーション力がUP。
- 自分たちで何をどうするかを考える主体性がUP。
- データを読み取る力、まとめる力がUP。
- 普段の授業も一生懸命に取り組む姿勢。

自信がついてきたとともに、自分たちに足りないものは何か気づき、行動に移すことができた。

地域の反応

- 吉高ライスバーガーに対する高い評価。
- 幼稚園・保育所・小・中学校との連携に期待。
- 今後の継続的な活動に期待。
- 地域人材との結びつきを強化した取組に期待。
- 高校生の視点から吉賀町の魅力をさらに発見。
- 発見した吉賀町の魅力を発信。

今後、目指すところ

- 小中学生と連携した活動
- 地域団体と連携した活動

地域と吉賀高校のさらなる発展を！